

令和7年度 第1回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議

次 第

日時 令和7年6月27日（金）13時～

場所 麻生区役所第2会議室

1 開会

2 議事

(1) 第7期麻生区地域福祉計画の令和6年度の評価について 資料 1-1～1-3

(2) 各種アンケートの結果について 資料 2 資料 3 参考資料 1-1～1-3

(3) 令和7年度麻生区長寿日本一の取組について 資料 4-1～4-2

(4) その他

・麻生市民館の市民自主学級・市民自主企画事業について 参考資料 2

3 閉会

次回 第2回会議日程 令和7年11月28日(金) 13時～14時半 麻生区役所

第3回会議日程 令和8年 3月 6日(金) 13時～14時半 麻生区役所

【配布資料】

- ・委員名簿
- ・座席表
- ・あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱
- ・資料 1-1 第7期麻生区地域福祉計画進捗状況
- ・資料 1-2 第7期各区地域福祉計画における評価に係る考え方について
- ・資料 1-3 第7期麻生区地域福祉計画・令和6年度評価
- ・資料 2 麻生区区民アンケート 概要版（抜粋）
- ・資料 3 川崎市 高齢者生活状況調査（抜粋）
- ・資料 4-1 麻生区長寿日本一「自分自慢アンケート」
- ・資料 4-2 麻生区幸福アンケート説明
- ・参考資料 1-1 柿生地区社会福祉協議会ニーズ調査
- ・参考資料 1-2 柿生地区社協活性化プロジェクト会議報告 66F8
- ・参考資料 1-3 地域の困りごと、課題調査まとめ
- ・参考資料 2 麻生市民館の市民自主学級・市民自主企画事業について
- ・参考資料 3 令和7年度地域包括ケアシステム講演会について

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議委員

(敬称略、順不同)

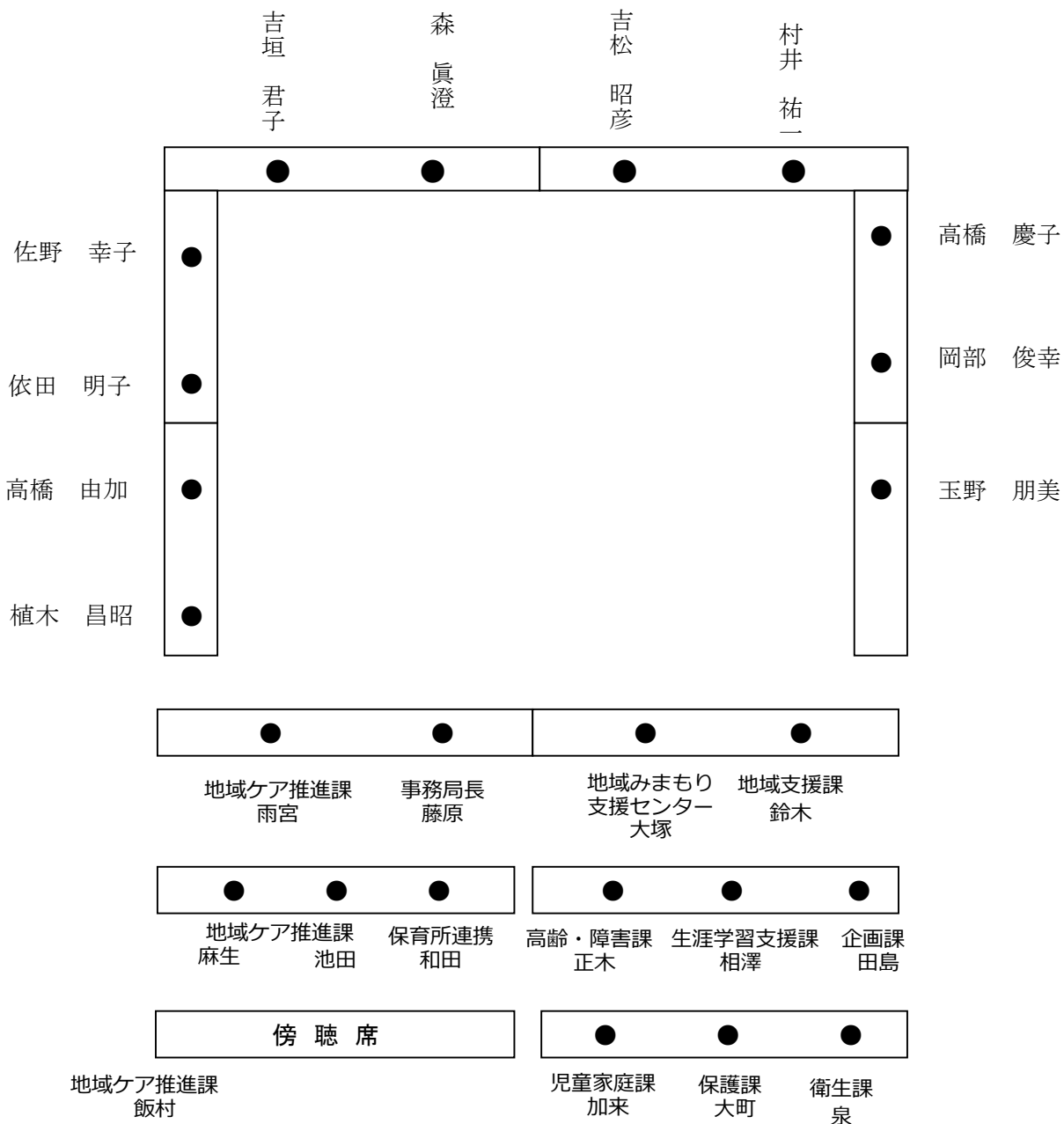
	区 分	団体名など	氏 名	備 考
1	学 識	田園調布学園大学	村井 祐一	
2	区 民	公募区民	植木 昌昭	
3	団体推薦	麻生区町会連合会	高橋 慶子	
4	〃	NPO 法人あさお市民活動サポートセンター	岡部 俊幸	
5	〃	麻生区民生委員児童委員協議会	森 眞澄	
6	〃	川崎市医師会麻生区医師会	吉松 昭彦	
7	〃	麻生区民生委員児童委員協議会 主任児童委員部会	吉垣 君子	
8	〃	麻生区地域包括支援センター連絡会議	玉野 朋美	
9	〃	麻生区地域自立支援協議会	平井 祐樹	
10	〃	麻生東地区社会福祉協議会	佐野 幸子	
11	〃	柿生地区社会福祉協議会	依田 明子	
12	関係機関	麻生区社会福祉協議会	高橋 由加	

事務局名簿

	所 属 ・ 役 職	氏 名	備 考
1	地域みまもり支援センター所長	藤原 亮子	事務局長（新）
2	地域みまもり支援センター副所長	大塚 吾郎	
3	地域ケア推進課長	雨宮 米美	新
4	地域支援課長	鈴木 千絵	
5	児童家庭課長	加来 健司	
6	高齢・障害課長	正木 久美子	
7	保護課長	大町 法久	新
8	衛生課長	泉 浩人	
9	保育所等・地域連携担当課長	前崎 牧子	新 代）和田課長補佐
10	危機管理担当課長	青柳 努	新 欠席
11	企画課長	田島 歳宜	
12	生涯学習支援課長	相澤 悟	
13	地域ケア推進課 企画調整係長	池田 賢一	新
14	地域ケア推進課 企画調整係 主任	麻生 淳一	
15	地域ケア推進課 企画調整係 主任	飯村 壮太	

令和7年度 第1回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議 座席表

(敬称略、順不同)



あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱

(設置)

第1条 この要綱は、あさお福祉計画（以下「福祉計画」という。）及び地域包括ケアシステムに係る取組を推進するため、あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議（以下「会議」という。）の運営に関し、必要な基本事項を定める。

(目的)

第2条 区長は、福祉計画及び地域包括ケアシステムの推進に関し、次に掲げる事項について、会議の委員の意見を求める。

- (1) 福祉計画の策定及び変更に関すること
- (2) 福祉計画の進捗状況に関すること
- (3) 麻生区における地域包括ケアシステムの推進及びネットワーク構築に関すること
- (4) 前各号に定める事項の他、会議で必要と認める事項

(委員)

第3条 会議の委員は、次に掲げる者に就任を依頼する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体代表者
- (3) 公募市民

2 前項の委員のほか、特別及び専門的事項に関する意見を求めるため、区長において必要があると認めるときは、推進会議に臨時の委員を置くことができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、あさお福祉計画の計画期間と同一とする。ただし、再任を妨げない。

(庶務)

第5条 会議の庶務は、麻生区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）地域ケア推進課において処理する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成28年10月14日から施行する。

(旧要綱の廃止)

- 2 あさお福祉計画推進会議開催運営等要綱（２６川麻地保第１２４１号）は廃止する。
（あさお福祉計画推進会議開催運営等要綱の廃止に伴う経過措置）
- 3 この要綱の施行の際、現に前項の規定による廃止前のあさお福祉計画推進会議開催運営等要綱第３条の規定により就任を依頼されたあさお福祉計画推進会議の委員である者は、この要綱の施行の日に第３条の規定により会議の委員として就任を依頼されたものとみなす。

附 則

この要綱は、平成３０年２月１９日から施行する。

附 則

この要綱は、平成３１年４月１日から施行する。

基本 目標	基本 方針	取組 No.	取組	関連する 部署	関連する団体等	数値で把握することが 可能な取組結果（R5）	数値で把握することが 可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
1 区民が主役の地域づくり	1 地域活動の参加につながる取組の推進（重点項目1）	1	地域活動に関わる人材の発掘と育成	地域支援課	区社会福祉協議会 麻生市民交流館やまゆり 麻生区ソーシャルデザインセンター	認知症サポーター養成講座：19回 459名 すくすく子育てボランティア養成教室：修了者 9名 すくすくボランティア活動参加者：延べ158人 健康づくりボランティア養成教室：修了者 17名 食生活改善推進員養成教室：修了者15名 シニアの社会参加支援：6回 97人 市民エンパワーメント研修：4回 86人 識字ボランティア研修：3回 44人 保育ボランティア研修：5回 54人	認知症サポーター養成講座：19回、710名 すくすく子育てボランティア養成教室：修了者0名 すくすくボランティア活動参加者：延べ167人 健康づくりボランティア養成教室：修了者10名 食生活改善推進員養成教室：修了者10名 シニアの社会参加支援：5回 52人 市民エンパワーメント研修：4回 21人 識字ボランティア研修：10回 157人 市民自主学級「新しい！こ隠居スタイルを目指して」：10回 275人	・認知症サポーター養成講座を開催し、認知症への理解を深め、地域の中で見守るサポーターを養成した。特に今年度は小学校に依頼し、若者への理解を深めた。 ・1歳6カ月児健診、3歳児健診、すくすく相談（育児相談）等でのボランティア活動を支援した。 ・年に2回すくすく子育てボランティア向けに連絡会と学習会を実施した。 ・昨年同様、健康づくりボランティアと食生活改善推進員養成教室を合同で全4日間実施した。グループ討論の時間を多く設定する事で、仲間づくりのきっかけとなるよう改善した。また、継続的な育成として、学習会において食に関する情報提供を行った。 ・シニアの社会参加支援について、トークセッション「若者と共に考えるこれからのキャリア」と「キャリアモデルカフェスタッフ研修」を実施し、キャリアについてそれぞれの価値観や視点を広げ、「キャリアモデルカフェ」を実施し、社会・地域貢献へつなげた。 ・市民エンパワーメント研修について、「障害者支援ボランティア講座」を実施し、「障がい者社会参加学習活動で共に活動する仲間を増やすことを目的として開催した」。 ・識字ボランティア研修について、共に学び合う学習者であるボランティアについて、また学習者の日本語習得程度に沿った効果的な学習方法とやさしい日本語について学ぶ研修を全10回開催した。 ・市民自主学級の下、人生100年時代を迎え、当事者同士の会話の中から、新たな生き方や新たなこ隠居スタイルについてともに学び、知恵を出し合いながらこれからの生きがいのヒントを探る講座を開催した。 ・地域のつながりづくりや新たな担い手創出を目的に、4月に開設し、12月にNPO法人化を行った、麻生区ソーシャルデザインセンターと協働して、まちのひろば祭りや100人カイギなどを開催した。 ・相談窓口検索サイト担当者会議を、検索サイトの向上・充実や福祉まつりへの参加に向けて5回実施した。 ・相談窓口の周知と活用促進、また地域デビューの一助のため、福祉まつりへ「はじめの一步」と題して、社協、SDC、やまゆりが共同で相談ブースを出展した。
		2	地域活動参加につなげる「ちいきのちからシート」の活用	地域ケア推進課 地域支援課	町会・自治会 地域で活動する団体	「ちいきのちからシート」実施回数：3回 町会、小学校、こども文化センター	「ちいきのちからシート」実施回数：1回 健康フェスin白山	・新任町会長研修、こども文化センター、地域情報交換会等で、これからの活動を考えるにあたって手掛かりを掴むために、ちいきのちからシートの活用案内を行った。また、3月23日の健康フェスin白山において、来場した参加者向けに紙のシートを使用して実施した。
		3	地区カルテを活用した地域づくり	地域ケア推進課 地域支援課	町会・自治会 民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター	HPアクセス数：86.8回/月	HPアクセス数：114.4回/月	・地域情報交換会や民生委員児童委員に対し共通フェイスシートを配布し、地域に関する情報の共有を行った。また、各種統計調査の結果を反映し情報更新の作業を進めた。
		4	学生ボランティア活動の促進	地域ケア推進課 地域支援課	区内大学 認知症カフェ等	学生ボランティアに関する講義：3回 学生ボランティアマッチング数：17件	学生ボランティアに関する講義：3回 学生ボランティアマッチング数：52件	・田園調布学園大学の授業内で認知症サポーター養成講座や行政社会福祉職講話、地域の福祉活動についての講話を通じて、地域におけるボランティア活動の意義を伝え、学生の福祉マインドの醸成に寄与した。
1 区民が主役の地域づくり	2 地域活動団体等への活動支援	5	地域活動等に対する活動支援	地域支援課 地域ケア推進課 高齢・障害課 衛生課	町会・自治会 民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター 老人クラブ	—	—	・公園体操や公園ウォークなど地域住民主体の地域活動等に対して、活動の立ち上げや、体操指導者の派遣、活動の継続に向けた関係者間の役割分担の調整などの支援を行った。 ・地域の交流・仲間づくりの環境醸成に向けて、民生委員・児童委員、生活支援コーディネーター、町内会・自治会等と情報共有、連携促進を図った。 ・地域住民との交流を促す活動について、地域包括支援センターや老人クラブと連携し、情報共有を行った。 ・食品の提供等を行う活動の相談はなかった。
		6	子育てグループへの活動支援	地域支援課 地域ケア推進課 保育所等・地域連携担当	子育てグループ 子育てボランティア 区社会福祉協議会	支援団体：2団体、対象者総数：274人 子育てボランティア派遣数：65人 出張講座：5回	支援団体：2団体、対象者総数：84人 子育てボランティア派遣数：51人 出張講座：4回 子育て自主グループ訪問：14か所 サロン訪問：6回	・子育てグループに出向き、育児相談を実施した。参加者が減少しているグループについて、状況を把握し今後の運営について相談支援を実施した。 ・子育てグループ交流会にて事業の紹介を実施。利用対象を子育てサロン等の地域の活動者へ拡大し、改訂した広報用リーフレットを各地区民児協定例会において配布し、事業説明を実施。地域のボランティア会員が1人新規登録。 ・出張講座では子育て自主グループの活動場所に出向き希望に応じた講座を計4回実施した。 ・自主グループ実施状況確認のため活動日に訪問し、広報や実施内容についての相談を受けた。 ・地域支援課と連携し、サロン開催日に訪問。参加者の相談を受けたり立入り保育園の広報を行った。
		7	市民提案型協働事業による地域活動団体との協働	企画課	地域で活動する団体	市民提案型協働事業採択団体数：4団体	市民提案型協働事業採択団体数：4団体	・地域課題の発見と解決を図り、より住みよいまちづくりを推進することを目的に、地域の団体と協働して提案事業に取り組んだ。提案事業の進捗状況及び適切な実施の確認のため、今年度事業の中間報告及び今年度事業実施の振り返りを行った。
		8	公園・街路樹等の愛護活動支援	道路公園センター	公園緑地愛護会 街路樹等愛護会 管理運営協議会	公園緑地愛護会：51団体 街路樹等愛護会：20団体 管理運営協議会：74団体	公園緑地愛護会：49団体 街路樹等愛護会：19団体 管理運営協議会：75団体	・町内会や自治会、公園利用者、市民団体、その他法人等の公園等ボランティアによる公園緑地及び街路樹等の日常的な維持管理によりまちの美化が保たれた。 ・公園緑地等の維持管理に加え、市民との協働による地元管理運営の推進によって、市民自治の確立による健全な地域コミュニティの発展育成の場の創出が推進された。

基本目標	基本方針	取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R5）	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
1 区民が主役の地域づくり	健康づくり・介護予防の推進	9	健康づくりの増進	地域支援課	地域包括支援センター生活支援コーディネーター	地域包括ケアシステム講演会：「健康長寿社会に向けて」91人 生活習慣病予防事業：「骨コツぱくぱく講座」11組 健康づくり講演会：「中高年からの骨折予防・転倒予防」46人 「将来のために知って欲しいママと子どもの骨のこと」30人 食育講演会：「知って得する！シニアのパワーアップレシビ」53人 あさおの保健室：5回 380人 公開講座「ロングライフコンディショニング」：3回 79人	生活習慣病予防事業：「野菜はくぱく講座」10組 食育講演会：「防災講演会」24人 あさおの保健室：6回 442人 公開講座「ロングライフコンディショニング」：4回 87人 地域の催しでの健康測定会：3回 141人 わくわくプラザを利用する小学生を対象とした健康講話：4か所 207人	・地域子育て支援センターにおいて実施した生活習慣病予防事業では、子育て世代を対象に、骨粗鬆症及び高血圧症、脂質異常症の予防、野菜摂取の工夫に関する知識の啓発を行った。 ・第5期川崎市食育推進計画の中の「さいがい」に備える食育の推進」を目的に、災害時の備えとして乾物の利用、ローリングストックの調理を伴う講座を通して普及した。 ・長寿日本一記念事業として、麻生区内スポーツ関連施設5か所と連携して健康づくりに関する普及啓発を実施した。施設のスペースを使い、健康チェックやその結果に応じた健康相談・情報提供を行う「あさおの保健室」を6回、スポーツジムのインストラクターによる公開講座「ロングライフコンディショニング」4回実施したほか、麻生区健康情報ポスターを毎月発行し、施設内に掲示し情報発信した。 ・わくわくプラザでは、「早寝・早起き・朝ご飯」をテーマに健康教育を行い、健康的な生活習慣の獲得・維持を促した。※コロナ禍でオンラインを使用した講演会が主流となり、コロナ禍が明けても、オンラインを併用して感染対策を継続し実施している。
		10	健康づくり・介護予防グループへの活動支援	地域支援課	地域包括支援センターあさお運動普及推進員の会 公園ウォーク推進委員会	—	介護予防講座の実施 区内5地区で実施 地域で活動する団体等での出前講話 69回（2,209人）	・ラジオ体操の講習会や骨密度などの測定会を開催したほか、公園体操をはじめとする地域の活動に出向き、インフルエンザや熱中症の予防などの講座を実施した。
		11	食生活改善推進員・配食ボランティアへの活動支援	地域支援課 衛生課	食生活改善推進員	学習会支援：11回 125人 配食ボランティア支援：2回 36人 配食ボランティア団体に対する衛生教育：2団体 75人	学習会支援：9回 115人 配食ボランティア支援：3回 64人 配食ボランティア団体に対する衛生教育：9団体 127人	・食生活改善推進員の継続的な育成として、学習会において区課題を共有し、食に関する情報提供を行った。また、配食ボランティアに対し介護予防の食に関する情報提供を行った。 ・区内の配食等ボランティア10団体から、会食活動、配食活動及びミニデイスービスの活動予定が提出された。うち9団体に衛生教育を実施（計9回）した。
2 区民本位の福祉サービスの提供	保健福祉に関する情報発信の充実（重点項目2）	12	様々な媒体を用いた保健福祉に関する情報発信	全課	—	市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信：80件 麻生区役所企画課Xアカウントにおける保健福祉情報の発信：85件	市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信：86件 麻生区役所企画課Xアカウントにおける保健福祉情報の発信：172件	・窓口でのチラシ・リーフレットを活用した案内の他、市政だより、区ホームページ、SNS（X）、イベント、会議、ネットワーク等で、区民や関係者に地域の保健福祉に関する情報を発信した。 ・「長寿日本一～その先へ～」に向けた取組として、「あなたが『幸せ』を感じる時」を募集し、区民まつり、福祉まつりなどのイベントにおいて、ブースを設置し、保健福祉に係る情報発信を行った。 ・市政だより麻生区版において、地域包括ケアに関する広報として2月号に「身近な暮らしのサポーター！生活支援コーディネーターを知っていますか？」を、子どもの教育に関する広報として3月号に「地域で支える『学び』と『育ち』」の特集記事を掲載した。
		13	子育て情報の発信	地域ケア推進課 地域支援課 児童家庭課 保育所等・地域連携担当	子ども関連ネットワーク会議	きゅっとハグあさお発行部数：5,600部 ちびっこおでかけMAP発行部数：11,000部	きゅっとハグあさお発行部数：5,000部 ちびっこおでかけMAP発行部数：11,000部 母子健康手帳交付時の情報提供 妊娠届出数：751名 直営健診実施時の情報提供 1歳6か月児及び3歳児健康診査受診数：1,625名 ホームページ掲載 市政だより掲載 10回（再掲） X掲載 18回（再掲） 地域支援情報おたより発行 12回	・「子育てガイドブック きゅっとハグあさお」及び「ちびっこおでかけMAP」を改訂し、窓口及び関係各所に配架した。 ・区内子ども関連施設のイベントやおたよりを区HPへ掲載し、情報発信を行った。 ・子育てフェスタのパンフレットに子育て支援情報を掲載し、子育てガイドブックや子育て人材バンク、子ども関連大学連携事業の情報発信を行った。 ・区役所及びイオンに設置している子ども情報コーナーにおいて、毎月おたよりを配架し、子ども関連のお知らせ等の情報発信を行った。 ・母子健康手帳交付時は、「きゅっとハグあさお」「かわさき子育てガイドブック」その他の妊娠出産育児に関するガイドブック等を配布。また「かわさき子育てアプリ」を紹介した。 ・1歳6か月児健診では、食事・運動と公立保育園・地域子育て支援センターの情報、かわさき子育てアプリを紹介。3歳児健診では、食事・運動の子育て情報を紹介した。 ・保育園のイベント情報を窓口に掲示し、情報発信を行った。 ・保育所利用申請に用いる「利用案内」の英語版を作成し、必要な世帯に配布した。 ・ホームページ・市政だより・X掲載のほか「かわさき子育てアプリ」の【お知らせ】欄の活用した。 ・子育て支援WEB予約サービス「ジモイク川崎」を活用し子育て支援の広報や受付を行った。 ・子育て支援申し込みの際にメールでの子育て情報の送付の希望の有無を確認し、希望のあった保護者に毎月の地域支援情報おたよりや地域のイベントのお知らせを送付した。（登録90件）
		14	高齢者や障害者が安心して生活するための制度や知識の普及啓発	高齢・障害課 地域支援課	地域包括支援センター 障害者相談支援センター	—	冊子「いつまでもいきいきと暮らすために」の更新 1,500部増刷・配布	・電話、来所相談等で健康づくり・介護予防に関する相談に応じ、適宜それぞれの状況に合った情報を提供した。適宜、高齢者福祉のしおり等の冊子や資料活用して説明を行った。 ・冊子「いつまでもいきいきと暮らすために」は、地域包括支援センターなどとも協力して地域住民に配布し、地域活動への参加を促した。
		15	感染症・食中毒予防の普及啓発	衛生課 地域支援課	区医師会 区薬剤師会 区食品衛生協会	—	—	食中毒予防に係る普及啓発を実施した。 ・掲示物等を活用した広報（懸垂幕・保健所入口・衛生課窓口） ・ブース展示を活用した広報（区総合防災訓練、あさお区民まつり、あさお福祉まつり） ・衛生教育や講演などを活用した広報（配食ボランティアへの広報、食品衛生責任者実務講習会あいさつの場や食品衛生指導員研修会の場を利用した広報） ・その他、食品衛生協会と連携した食品関連事業者向けの広報 感染症予防に係る普及啓発を実施した。 ・区役所ホールによるデジタルサイネージ及び衛生課窓口におけるブース展示 ・区総合防災訓練でのブース出展 ・「今、何の病気が流行しているか！」を区内医療機関15施設に送付、区役所内で4か所に掲示することに加え、Xを活用した情報発信 ・地域課題対応事業の一環として新百合ヶ丘総合病院 医学健康講座と共催により感染症講演会を開催

基本目標	基本方針	取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R5）	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
2 区民本位の福祉サービスの提供	相談支援に対する専門性の向上と関係機関との連携強化	16	子ども・子育てに関する相談支援体制の充実	地域支援課 児童家庭課 高齢・障害課 保護課 保育所等・地域連携担当 学校・地域連携担当	保育所 地域子育て支援センター 児童家庭支援センター 地域療育センター 子ども発達・相談センター	専門的な相談：76回 専門的な教室：16回 状況把握のための母子世帯に対する訪問調査実施回数：月平均12.7回（年間150回）	専門的な相談：60回 専門的な教室：15回 状況把握のための母子世帯に対する訪問調査実施回数：月平均15.5回（年間187回） 大きくない相談会：6回開催 子育てなんでも聞いてみよう！：15件	・発達の遅れが疑われる子どもやその家庭への支援として、専門的な相談を実施した。 ・発達が気になる子どもへの関わり方を学ぶ専門的な教室を開催した。 ・随時、発達の遅れが疑われる子どもやその家庭に対して、保健師、社会福祉職、心理職、子ども教育相談員等専門職が連携し電話相談や面談等対応した。 ・4月入所に向けた申請受付期間の前に個別相談会を実施し、世帯状況に応じた案内を行った。 ・子どもや子育てに関する市民からのニーズを訪問調査や面接等で聴取り、地域支援課や児童相談所等関係機関をはじめ、関係部署や関連団体と必要に応じて連携協働した。また、関係部署や関連団体とのカンファレンスや事例検討にも積極的に参加した。 ・地域子育て支援センターのみなみゆりがおかで地域支援課の心理士と公立保育園のコーディネーターと相談会を実施。主に発達についての相談を受けた。 ・子育てなんでも聞いてみよう！はロゴフォーム（インターネット上の応募フォーム）から相談を受け付けて電話・メール・オンラインでそれぞれの専門職が対応した。必要に応じて地域支援課と連携した。 ・学校や教育委員会事務局と密に連携を取りながら、電話や来庁者の教育相談への対応・支援を行った。
		17	高齢者に関する相談支援体制の充実	高齢・障害課	地域包括支援センター	—	—	・電話や来所相談に来られた方の話をよく聞き、必要に応じて地域包括支援センターや関係窓口の案内を行った。
		18	障害者に関する相談支援体制の充実	高齢・障害課	障害者相談支援センター	—	相談支援調整会議：月1回	・北部地域支援室、障害者相談支援センター職員と協働でGSV（グループスーパービジョン）の手法を活用した事例検討を行い、支援方法等に関する協議や計画相談支援等の質及び充実に関して協議した。
		19	健康で快適な暮らしを確保するための相談支援体制の充実	衛生課	—	—	ねすみや衛生害虫等に係る苦情・相談件数：ねすみ120件、衛生害虫等：266件 両親学級等衛生的な住環境に関する講習会：計20回 414人	・ねすみや衛生害虫等に係る苦情・相談が寄せられた際には、必要に応じ関係部署と連携し、解決に向け対応した。また、結核、エイズ等の感染症についても患者やその地区民から寄せられた相談に対して適切に対応した。 ・令和6年度は、両親学級その他高齢者の会食活動や地域包括支援センター長会議でも衛生的な住環境に関する講話を行った。
		20	権利擁護への対応の充実	高齢・障害課 地域支援課	児童家庭支援センター 地域療育センター 子ども発達・相談センター 地域包括支援センター 障害者相談支援センター 麻生区あんしんセンター	通報件数： 障害者に対する虐待：21件 高齢者に対する虐待：82件 区内小中学校訪問： 小学校16校、中学校8校 乳幼児虐待予防事業スーパーバイズ研修：7回 要保護児童対策地域協議会スーパーバイズ研修：2回	通報件数： 障害者に対する虐待：49件 高齢者に対する虐待：100件 市長申立：1件（高齢） 区内小中学校訪問： 小学校16校、中学校8校 乳幼児虐待予防事業スーパーバイズ研修：4回 要保護児童対策地域協議会スーパーバイズ研修：2回 要対協研修：小学校1校	・地域包括支援センターや相談支援センター、麻生警察署との連携を密に相談や通報への迅速な対応・支援を行った。 ・虐待対応の中で成年後見の利用が必要と思われる対象者に対し関係機関と連携し、制度説明等利用支援を行った。親族による申立てについては川崎市成年後見支援センターや麻生区あんしんセンター、法テラスを案内するなど連携して相談対応を行った。 ・毎月実施している高齢者支援カンファレンスに障害者相談支援センターや北部在宅支援室等が定期的に出席している。複合化した課題に対して、包括的相談支援の実現のため事例を通じた役割分担や連携の在り方について検討を行った。 ・育児負担のある保護者や当該児童の相談、学校等関係機関からの相談、通告に適宜応じた。 ・対応のスキルアップのため、乳幼児虐待予防事業スーパーバイズ研修、要保護児童対策地域協議会スーパーバイズ研修を課内職員（一部外部職員含む）向けに実施した。 ・主任児童委員の主催で、5～6月の期間中に区内全小中学校訪問を実施し、情報交換や共有を行った。 ・個別の要支援児童等への対応について、個別支援会議を随時実施した。 ・区内のこども文化センター、わくわくプラザについて関係機関を訪問し、子どもの居場所としての取組や子どもたちの過ごし方について調査した。また、要保護児童対策地域協議会での連携についても協力を依頼した。 ・日頃から学齢児支援で連携を取っている小学校で要対協研修を実施。地域支援課の支援内容について知っていたく機会となり、今後連携して支援していくための下地づくりを行えた。
		21	専門機関等と連携した相談支援体制の強化	全課（地域みまもり支援センター）	地域包括支援センター 障害者相談支援センター 児童家庭支援センター 地域療育センター 子ども発達・相談センター	要保護児童対策地域協議会実務者会議 代表者部会：2回（9月・1月） 連携調整部会：12回（毎月）	要保護児童対策地域協議会実務者会議 代表者部会：1回（8月） 連携調整部会：9回（毎月）	・地域の人と顔が見える関係づくりを進めるとともに、把握した様々な課題について相談支援機関との連携を強化し、地域課題への支援体制を構築するため、次の会議を開催した。 ・要保護児童対策地域協議会実務者会議の代表者部会について、令和4、5年度実施の流れを受けて「子どもの“いい”を一緒に～子どもの声を聴ける地域づくり～」を年間テーマに実施。第1回目は改正児童福祉法の講義や、「子どもの声を聴く地域づくりのために麻生区に必要なこと、できること」をテーマにグループワークを実施。グループワークでの意見を踏まえ、第2回目は事例を用い、地域で子どもの声を聴くために何ができるのか検討の場を設け、支援者、地域における意識醸成の一助とした。 ・地域包括支援センター・障害者相談支援センターとの連絡会では、相談支援業務における個別課題解決に向けた情報交換や、地域づくりにおける課題発見や資源開発に向けた情報交換を行った。

基本目標	基本方針	取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R5）	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
3「ひと・もの・場」をつなぐ自助・互助の仕組みづくり	1認知症にやさしいまちづくりの推進	22	認知症に関する普及啓発	地域支援課	あさおオレンジプロジェクト 地域包括支援センター 区社会福祉協議会	あさおオレンジプロジェクト：3回 認知症講演会：2回 麻生図書館・柿生分館パネル展示：2回 柿生小学校図書室展示：1回 認知症サポーター養成講座：19回（再掲） RUNTOMO+あさお実行委員会へ出席：10回 キャラバン・メイト連絡会：2回 認知症にやさしいまち表彰：1店舗 認知症フォローアップ講座：1回	あさおオレンジプロジェクト：3回 そなえる認知症I（講演会） そなえる認知症II（講演会） 麻生図書館・柿生分館パネル展示：2回 百合丘小学校図書室展示：1回 認知症サポーター養成講座17回（再掲） RUNTOMO+あさお実行委員会へ出席：9回 キャラバン・メイト連絡会：2回 認知症にやさしいまち表彰：9店舗 認知症フォローアップ講座：1回	・あさおオレンジプロジェクトの実施により、麻生区の認知症施策の検討を行った。 ・キャラバン・メイト連絡会を実施し、市内キャラバン・メイトへの情報提供及び認知症サポーター養成講座開催に向けての情報交換、サポーター養成講座受講後の活躍の場についての検討を実施した。 ・図書館（麻生図書館、柿生分館）、図書室（百合丘小学校、片平小学校）での展示により、市民に対し、認知症の方への理解を進めた。 ・認知症サポーター養成講座を受講し、今後、認知症の方々の居場所となりたい思いや、地域で見守ってほしいとの思いのある、麻生区内及び近郊の都市の企業・店舗に対し、「認知症にやさしいお店」として、区長から表彰を行い、ステッカーを授与した。 ・市民向け認知症サポーター養成講座のフォロー講座（そなえる認知症1・2）：2回（11月8日、12月25日） ・あさおオレンジプロジェクトの会議の意見を参考に区内の認知症カフェを訪問し、まとめたものを講座やロビー等で展示し、区民への周知を行った。
		23	認知症訪問支援事業	高齢・障害課	地域包括支援センター 認知症サポート医 訪問看護師 ケアマネジャー	認知症訪問支援チーム員会議：6回 （定例5回、臨時1回） 令和5年度新規対象者：3件	認知症訪問支援チーム員会議：7回 （定例6回、臨時1回） 令和6年度新規対象者：5件	・認知症訪問支援事業チーム員会議を隔月開催。支援対象者を医療介護等の支援につながるよう専門職による検討を行った。
		24	認知症等行方不明SOSネットワーク事業	高齢・障害課	地域包括支援センター 警察署	区内発生件数：0件	区内発生件数：2件（解決済）	・区内で発生した場合に庁内等関係機関で情報共有できるように、区社会福祉協議会、保護課、地域支援課、地域ケア推進課に情報提供を行った。
	2地域ぐるみで子育てできる環境づくりの推進	25	地域で子育てを支える取組	保育所等・地域連携担当 地域支援課	保育所 地域子育て支援センター	こんにちは赤ちゃん訪問 106件	はじめてのパパママ 3回開催 （Ⅰ期）34組69名参加 （Ⅱ期）41組85名参加 にこにっこ 2回開催 （Ⅰ期）14組28名参加 （Ⅱ期）9組18名参加 サロンへの訪問 8回 こんにちは赤ちゃん訪問 90件	・「はじめてのパパ＆ママ」3回連続講座 栄養士、保育士、看護士の講座を実施。参加者同士の懇談を行った。 ・「にこにっこ」父親の育児講座 保育士による遊びの紹介。父親同士の懇談を行った。 ・新しくできたサロンに公立保育園の職員と共に訪問。相談を受けたり、遊びの提供を行った。 育児不安や孤立の軽減、地域とのつながりがもてるよう訪問を実施した。 令和6年度の新規登録訪問員は1名。訪問員のスキルアップのための研修と連絡会を2回実施した。
		26	大学と連携した子ども・子育て支援事業	地域ケア推進課 保育所等・地域連携担当 生涯学習支援課	区内大学	小学生向け支援事業 5大学 未就学児親子向け支援事業 2大学	小学生向け支援事業 5大学 未就学児親子向け支援事業 2大学	・日本映画大学と連携し、こども映画大学を8月に実施。体験学習に22名の参加、上映会に家族等71名の参加があった。 ・昭和音楽大学と連携し、区内小学生を対象とした「交流コンサート」を11月に実施した。70名の親子が参加し、音楽を通じた学生との交流を楽しんだ。 ・4歳以上の子どもと家族を対象とした「昭和音楽大学吹奏楽団ファミリー定期演奏会」を実施。午前と午後、合わせて1,000人以上の一般来場者があり、多くの区内在住親子が参加した。 ・玉川大学と連携し、乳幼児の保護者・妊娠中の方を対象とした講座を1月に、区内小学生を対象とした体験学習を2月に実施した。講座に20名の参加、体験学習に22組44名の参加があった。 ・田園調布学園大学にて未就学児親子を対象に「キッズアート」を9月に開催。大学講師と学生、地域親子と一緒に彫塑粘土を使った表現あそびを行った。 ・田園調布学園大学で未就学児親子を対象に「あそぼう！けろけろ田園チャイルド」を開催。10月に開催。大学教授とゼミの学生、民間保育所職員が遊びの提供を行い、地域親子と交流した。 ・和光大学と連携し、区内小学生を対象に「ファミリー体験学習in鶴見川」を実施。4組8名の参加があった。（当初は20組を超える申込があったものの、トンネル見学ができなくなったこと、さらに前日の大雨予報や体調不良の理由等、度重なる要因でキャンセルが多くなってしまった。）
		27	麻生区子ども関連ネットワーク会議	地域ケア推進課	子どもに関わる機関・団体	回数：2回 子育てグループ交流会（麻生区社会福祉協議会子育て支援委員会と共催）：1回 10人参加	回数：2回 子育てグループ交流会：1回 12人参加	・お互いの活動に関する情報交換や子どもの権利に関する研修会を行うとともに、麻生区社会福祉協議会子育て支援委員会との共催にて講演会を2月に開催した。 ・麻生区社会福祉協議会子育て支援委員会との共催で10月に子育て関連グループ交流会を実施し、12名の参加があった。

基本目標	基本方針	取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R5）	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
3「ひと・もの・場」をつなぐ自助・互助の仕組みづくり	3地域活動団体の交流の場づくり	28	あさお福祉まつり	地域ケア推進課	区社会福祉協議会 福祉活動団体	第34回あさお福祉まつりの実施 参加団体数：63団体 来場者数：約5,500人	第35回あさお福祉まつりの実施 参加団体数：63団体 来場者数：約5,600人	・麻生区社会福祉協議会と共催で「第35回あさお福祉まつり」を11月10日に実施した。
		29	あさお子育てフェスタ	生涯学習支援課 地域ケア推進課 企画課 地域支援課 保育所等・地域連携担当	子どもに関わる機関・団体 民生委員児童委員協議会	来場者数：約2,000人 参加団体数：25団体	来場者数：約1,000人 参加団体数：25団体	・子育て世代のための情報提供や親子のふれあいの場として、25団体（地域の子育て支援団体等）が参加・協力し、3月20日（木・祝）に区役所前広場・市民館を会場に開催した。
		30	麻生市民館サークル祭	生涯学習支援課	麻生市民館サークル連絡会	参加サークル数：30サークル 来場者数：約2,100人	参加サークル数：29サークル 来場者数：約3,100人	・サークル活動の1年間の集大成の発表の場、及びサークル・地域間の交流の場として、6月8・9日に開催した。市民館の大ホール、大会議室等を利用し活動発表を披露した他、6月7～12日でギャラリーで美術展を実施した。
		31	希望のシナリオ実現に向けた取組	企画課	麻生区ソーシャルデザインセンター	—	—	・地域の課題解決やまちのひろば創出を目的に、4月に開設し、12月にNPO法人化を行った、麻生区ソーシャルデザインセンターと協働して、団体や個人等からの相談受付やSDCカーによる交流の場づくり、他区SDCとの交流・情報交換等を行った。
		32	麻生市民交流館やまゆりの活用促進	地域振興課	麻生市民交流館やまゆり	市民活動相談窓口の開設：週2回 人材育成講座：全5回（アクティブシニア講座） 市民活動団体交流イベント： ・市民活動団体発表会 1回 参加団体 6団体 ・ビバ！あさおの子どもたち 1回 参加団体 7団体 麻生区地域コミュニティ活動支援事業：4団体	市民活動相談窓口の開設：週2回 人材育成講座：全5回（アクティブシニア講座） 市民活動団体交流イベント： ・市民活動団体発表会 1回 参加団体 6団体 ・ビバ！あさおの子どもたち 1回 参加団体 7団体 麻生区地域コミュニティ活動支援事業：6団体	・相談窓口や情報紙「やまゆりニュース」（6・10・2月）、「あさおふれんず」（4・8・12月）の発行により、主に麻生区内の市民活動情報の提供、発信を行った。 ・区民の地域参加を支援するため、定年退職者等を対象とした人材養成講座「アクティブシニア講座」を行った。 ・市民活動団体、区民の交流を促すため、「ビバ！あさおの子どもたち」や「市民活動団体発表会」を開催した。 ・新たなコミュニティづくりにつながる事業を申請した6団体に対して助成を行った。
	4災害対応力の向上と防犯対策の強化	33	地域の防災活動支援	危機管理担当	町会・自治会 自主防災組織	防災資器材購入補助金：申請34件 活動助成金：43件	防災資器材購入補助金：申請38件 自主防災活動助成金：36件	・各自主防災組織が災害に備えるために調達する防災資器材購入補助金の交付や、自主防災組織の訓練に対する自主防災組織活動助成金を通じた活動支援を行った。
		34	区民の防災意識・防災スキルの向上	危機管理担当	町会・自治会 自主防災組織	総合防災訓練実施回数：2回 区民防災塾の開催：2回（うち1回は荒天により中止） 避難所運営会議の開催：25か所 地域における自主防災組織の訓練の実施回数：56回 ぼうさい出前講座：30回	総合防災訓練実施回数：2回 区民防災塾の開催：1回 避難所運営会議の開催：24か所 地域における自主防災組織の訓練の実施回数：51回 ぼうさい出前講座：29回	・第1回麻生区総合防災訓練は、自主防災組織を対象に市の総合防災訓練として9月1日に麻生水処理センター及び市立柿生小学校で実施予定だったが大雨の影響で中止となった。ただし、訓練で重視していた女性やトイレ問題などは、総合防災訓練前のプレ訓練や避難所運営会議などの実働訓練の中で実施したことで、地域団体の防災力強化につなげた。 ・第2回麻生区総合防災訓練は、市が実施していた「備えるフェスタ」と初の合同開催となり、12月7日に新百合ヶ丘駅南口ペDESTリアンデッキとミスノフトサルブラザ新百合ヶ丘で実施した。普段使いのモノを防災に活かすためのアイディア紹介や楽しみながら防災を学ぶコーナーを多数設置し、普段防災に関心の少ない市民に防災啓発を行った。また、同時に開催した区民防災塾では、パールやジャッキ、ロープ等を使った実践的訓練や楽しみながら防災を学べるGENSAI迷路などを設定し、防災意識・スキルの向上と「自助」の強化を図った。なお、この訓練では帰宅困難者対策訓練も併せて実施し、関係団体間の連携強化につなげた。 ・区内25か所の全ての指定避難所で開催される避難所運営会議では、これまでの会議形式ではなく実働訓練とし、避難所開設、運営訓練を実施した。 ・「ぼうさい出前講座」では、住民の集会等に区の危機管理担当が参加し、災害時のトイレ問題を中心に小学生から高齢者まで幅広い年齢層に防災知識の普及啓発を行った。
		35	災害時要援護者避難支援制度	危機管理担当 高齢・障害課 地域ケア推進課	町会・自治会 自主防災組織 民生委員児童委員協議会	災害時要援護者避難支援制度 登録者数：612名 内、新規登録：77件 （障害者27件、高齢者50件）	災害時要援護者避難支援制度 登録者数：589名 内、新規登録：70件 （障害者25件、高齢者45件） 6地区民生委員児童委員協議会合同災害委員会： 4回地区民生委員児童委員協議会内で意見交換： 2～3回／6地区	・高齢・障害課の窓口にて災害時要援護者避難支援制度の申請があり次第、名簿等の重要書類を自主防災組織へ送付し、申請者への訪問等を依頼するとともに、民生委員との連携を促した。また、町会・自治会、民生委員に対して、出前講座等にて制度の説明を行った。 ・二次避難所連絡会議を令和7年2月17日に開催した。 ・令和6年4月1日時点の登録者について、6月開催の地区民生委員児童委員協議会で個票を配布した。令和6年7月に6地区民生委員児童委員協議会合同災害委員会を立ち上げ、「平常時と発災時の民生委員児童委員の心がけ事項」を作成した。個々の認識を統一し、町会・自治会・自主防災組織と連携した避難支援体制づくりを検討した。
		36	災害時個別避難計画の作成支援	高齢・障害課	居宅介護支援事業所 障害者施設等 相談支援事業所	—	区役所作成：31件 相談支援事業所作成：57件	・自ら避難する事が難しい障害者等が安全に行動できる具体的な避難方法を検討し、避難先での配慮事項と一緒に考えるため家庭訪問や施設訪問し、災害時個別避難計画を作成した。また、計画相談事業所が災害時個別避難計画を作成する際に助言・指導する伴走支援も実施した。
		37	防犯への対応力の強化	危機管理担当	警察署 麻生区安全・安心まちづくり協議会	防犯研修会の開催：3回 スポーツ防犯教室の開催：2回 麻生セーフティメール 配信数55件 登録者数6,088名（内新規登録者数263名） わんわんパトロール登録者数169名（令和5年10月1日から）	防犯研修会の開催：2回 スポーツ防犯教室の開催：2回 麻生セーフティメール 配信数63件 登録者数6,393名（内新規登録者数305名） わんわんパトロール登録者数221名（内新規登録者数52名）	・警察と連携した防犯研修会や小学生を対象としたスポーツ防犯教室を開催するとともにわんわんパトロール事業を通じた個人の防犯見守り活動の支援を行うことで防犯意識の醸成に向けた取組を行った。 ・麻生区で発生した犯罪、災害、交通事故などの身近な情報を発信し安全安心意識の醸成に向けた取組を行った。 ・麻生区内の防犯・防火・防災等の情報を地域が共有できるよう麻生セーフティメールを配信した。 ・区民からの防犯カメラ新設や防犯灯の修繕、迷惑電話防止対策（迷惑電話防止機能付き電話）等の相談に対応した。

基本目標	基本方針	取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R5）	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
3「ひと・もの・場」をつなぐ自助・互助の仕組みづくり	5地域における見守り力の向上（重点項目4）	38	ひとり暮らし等高齢者見守り事業	高齢・障害課	民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター	見守り対象者：25名	見守り対象者：25名	・令和6年度は全数調査であり、調査対象者は約8,500名ほど。9月～10月に民生員児童委員協議会に事業説明し、今年度のスケジュールをお伝えし、見守り対象者を選定した。 ・地域包括支援センター連絡会議にて見守り対象者リストを共有し、対象者の確認を行った。
		39	地域福祉の担い手による地域情報交換会	地域ケア推進課 地域支援課	民生委員児童委員協議会 町会・自治会 地域包括支援センター 区社会福祉協議会	地域情報交換会の実施 2回	地域情報交換会の実施 6回（地域みまもり支援センター・民生委員児童委員協議会主体） 地域情報交換会の実施 1回（地域みまもり支援センター主体）	・民生委員児童委員と町会・自治会、地域包括支援センター、社会福祉協議会等が意見交換を行う「地域情報交換会」を、各地区民児協と共催して、地域情報交換会を通じて、地域の関係者がお互いの活動を理解し合うとともに、地域資源の共有や地域課題に対する認識の共有が図られた。 ・下麻生地区において地域福祉の担い手による地域情報交換会を開催し、担い手同士の連携を促した。
		40	地域の生活支援コーディネーターと連携した地域づくり	地域ケア推進課 地域支援課	生活支援コーディネーター	—	—	・地域情報交換会やあさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議を通じて、町内会等、他団体との交流の機会を創出した。 ・市政だより区版にて、区内5カ所の事業所の取組等を紹介した。 ・生活支援コーディネーター主催の会議等に出席し、地域情報の共有と地域の主体との連携を促した。
		41	麻生区高齢者見守りネットワーク事業	高齢・障害課	協力事業者 地域包括支援センター 民生委員児童委員協議会	通報件数：4件 協力事業所：26業者 情報交換会：1回	通報件数：13件 協力事業所：28業者 情報交換会：2回	・協力事業者及び関係機関（民生委員、地域包括支援センター、警察、消防など）との情報共有及び連携強化を図り、事業を円滑に運営することを目的とする情報交換会を9月に実施。今年度は新たに2事業所が加入した。 ・協力事業者あてに地域支援課主催の講演会や消費者行政センター主催の講演会情報をメール配信した。
		42	川崎市地域見守りネットワーク事業	地域ケア推進課	協力事業者 地域包括支援センター 民生委員児童委員協議会	通報件数：6件	通報件数：4件	・協力民間事業者からの通報を受け、対象者の安否確認等必要な対応を行った。
	6地域福祉を支える関係者の支援とネットワークの強化	43	町会・自治会への活動支援	地域振興課	町会・自治会	町会・自治会ガイドブック：6,000部発行 町内会・自治会活動応援補助金：67町内会・自治会から申請 麻生区町会連合会の研修・勉強会：3回 町会長・自治会長会議：1回	町会・自治会ガイドブック：6,000部発行 町内会・自治会活動応援補助金：77町内会・自治会から申請 麻生区町会連合会の研修・勉強会：3回 町会長・自治会長会議：1回	・「町会・自治会ガイドブック」（A4判24ページ）について、麻生区町会連合会と今年度の仕様を検討した。町会・自治会に加入するメリット等に関する記述を充実させた上で、6,000部発行した。 ・町内会・自治会活動応援補助金について、説明会を6月に2回開催するとともに、随時個別相談、町内会・自治会への訪問説明を行った。なお、町会長・自治会長のライフスタイルに配慮し、2回の説明会のうち1回を夜間に開催した。 ・麻生区町会連合会の事務局として、町内会・自治会活動の活性化のための研修会・勉強会開催の補助を行った。5月に町内会・自治会の活動取組事例等を議題として、「新任町会長・自治会長研修」を実施した。10月に町内会・自治会の緑化活動の参考にするため、川崎区内の緑化フェアを視察する「勉強会」を実施し、都市緑化の重要性を再確認した。1月に、町内会・自治会運営、防災・防犯の知識の向上を図るため、「町会長・自治会長会議」を実施し、行政・関係機関の施策に関する説明を受けるとともに、弁護士・看護師・警察から具体的な事例を交えた講義を受けた。また、2月に視察先を我孫子市を中心とした「視察研修会」を実施した。
		44	民生委員児童委員協議会への活動支援	地域ケア推進課	民生委員児童委員協議会 区社会福祉協議会	地区民生委員児童委員協議会：月1回／6地区	地区民生委員児童委員協議会：月1回／6地区、 地域情報交換会：6回（再掲）	・区内6地区にある民生委員児童委員協議会の運営を支援した。一部の民生委員児童委員協議会で実施した地域情報交換会の運営を支援した。
		45	福祉関係団体への活動支援	地域ケア推進課	日本赤十字社 保護司会	総会・定例会等開催回数 保護司会：12回 遺族会：3回 赤十字奉仕団：1回	総会・定例会等開催回数 保護司会：10回 遺族会：3回 赤十字奉仕団：2回	・各種団体の事務局として、総会や定例会の運営補助（会場準備・開催案内送付・出席者集約・資料作成・印刷・外部関連機関への報告等）を行った。また必要に応じて会へ出席し、区からの情報提供を行うとともに、各種啓発イベントに協力するなど、関係団体と密に連携しながら活動支援を行った。
		46	地域包括支援センターとの連携	高齢・障害課 地域支援課	地域包括支援センター	地域包括支援センター運営協議会：年2回 地域包括支援センター連絡会議：月1回 高齢者支援カンファレンス：月1回	地域包括支援センター運営協議会：年2回 地域包括支援センター連絡会議：月1回 高齢者支援カンファレンス：月1回	・地域包括支援センター運営協議会を2回開催した。（11、3月） ・地域包括支援センター連絡会議を月1回開催し、包括の業務に関する情報共有や検討を行っている。連絡会議と同日に研修や情報交換の機会を設け（障害に関する制度やBCP等）、効率的に開催した。 ・区独自に開催している高齢者支援カンファレンスについて今年度は障害関係者やリハ拠点、SC等の新たな参加者があり、個別支援のスキルアップとネットワーク構築に取り組んだ。 ・地域包括支援センター連絡会議に出席し、情報共有や連携強化を行った。 ・高齢者支援カンファレンスに参加し、地域の高齢者支援について関係機関と検討を行った。
		47	麻生区地域自立支援協議会との連携	高齢・障害課	障害者相談支援センター	企画運営会議：月1回	企画運営会議：月1回	・障害者に対する相談支援体制の理解をより深められるように、多摩区と共催で指定・特定相談支援事業所と連絡会を5回実施した。 ・居宅介護事業所と利用者の相互理解を深める座談会、茶話会を各1回、障害者グループホームとの連絡会を2回実施し、情報共有を図った。
		48	麻生区社会福祉協議会との連携	地域ケア推進課	区社会福祉協議会 地区社会福祉協議会	—	—	以下の内容について、相互の取組に参画し、麻生区社会福祉協議会との連携強化を図った。 ・麻生区社会福祉協議会が主催する各種委員会に委員として参加し、情報共有した。 ・麻生区社会福祉協議会の事業に広報に協力した。（民生委員児童委員活動強化月間における横断幕・懸垂幕掲示）
		49	麻生区在宅療養推進協議会との連携	高齢・障害課	区医師会 麻生区介護支援専門員連絡会	区民向けシンポジウム：年1回 参加人数88人	区民向けシンポジウム：年1回 参加定員400人	・麻生区在宅療養推進協議会（麻生区医師会）が2月22日（土）に市民向けフォーラムを実施。会場予約や市政だよりへの掲載等について協力した。
		50	民間資源を活かした地域福祉活動の推進	地域ケア推進課 地域支援課	社会福祉法人 民間企業 独立行政法人	—	—	・長寿日本一記念事業として、麻生区内スポーツ関連施設5カ所と連携して健康づくりに関する普及啓発を実施した。施設のスペースを使い、健康チェックやその結果に応じた健康相談・情報提供を行う「あさおの保健室」を6回、スポーツジムのインストラクターによる公開講座「ロングライフコンディショニング」4回実施したほか、麻生区健康情報ポスターを毎月発行し、施設内に掲示し情報発信した（再掲）
		51	地域包括ケアに関する会議	地域ケア推進課 地域支援課 高齢・障害課	町会・自治会 区社会福祉協議会 民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター	あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議：4回 相談支援・ケアマネジメント推進委員会 3回実施	あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議：3回 相談支援・ケアマネジメント推進委員会 3回実施	・関連団体、学識経験者、公募市民による、あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議を行い、麻生区ソーシャルデザインセンターや区内の生活支援コーディネーターから説明を伺うとともに、意見交換を実施した。 ・地域包括支援センターが主催する「地域ケア圏域会議」に出席し、町会役員や民生委員等地域住民や関係者と地域の現状や課題を共有し、地域活動に繋げられるよう支援した。 ・包括が主催する調整会議やケアマネ連絡会主催の幹事会、地域包括支援センターとケアマネ連絡会で共催する研修等についての年間計画を作成した。 ・地域ケア会議からあがる地域課題や課題解決への取組、区内で実施する高齢者に関する多様な取組を区課題整理シートに掲載し、更新。他の主体とも連携して課題解決に取り組んだ。

第7期各区地域福祉計画（令和6～8年度）における評価に係る考え方について

1 評価の目的

年度ごとに施策ごとの実施状況や計画の達成状況を把握し、取組の総括を行うとともに、次年度事業の改訂の必要性の要否を検討、必要な対策を講じることを目的に評価を行います。また、計画の評価に際して、住民による継続した地域福祉活動への動機付けとなることを重視して評価を行います。

2 評価方法

(1) 重点的な取組

各区地域福祉計画の階層において「基本方針・施策」を記入する。

※「基本方針・施策」とシートに記載欄はありませんが、区地域福祉計画に記載している具体的な取組を PDCA サイクルの P（計画）と捉えてください。

(2) 取組状況

数値で事業の実績・効果等を把握できる重点的な事業を抽出する。

（例えば、事業回数、参加者数（延べ数）、登録者数など実績を入力する）

(3) 取組状況に対する評価

取組状況を加味しながら、重点的な取組・方針の達成状況を記入してください。また、評価に際しては、結果や成果のみならず、プロセスとして工夫したことの有無、効果（地域住民の意識や行動の変化・関係機関との連携による影響など）も入れて総合的に評価してください。

(4) 事業の達成度

次の考え方を参考にしながら、達成度を入れてください。

達成度	総合計画の指標	区地域福祉計画における評価の考え方
1	目標を大きく上回って達成	プロセスとして創意工夫したことがあり、効果も大きいと判断される場合
2	目標を上回って達成	
3	目標をほぼ達成	プロセスとして創意工夫したことがある又は効果が一定程度評価できる場合
4	目標を下回った	プロセスとして創意工夫した点がなく、効果も評価できない場合
5	目標を大きく下回った	

【留意事項】

ア 市民の活動を取り上げている場合は、行政として適切に支援を実施したかという点に重きを置いて評価してください。ただし、市民活動の主体自らが、何らかの手段で自己評価できる場合は、その内容を「取組状況に対する評価」欄に記入した上で、総合的に評価してください（例えば、実行委員会形式での反省会・講評、アンケート他）。

イ 総合計画の区課題事業に掲載されている事業と同じ内容であれば、できるかぎりそれに倣って評価してください。

(5) 特筆すべき取組を含めた総評

総評を記入するとともに、次年度に向けて改善点があれば記入してください。

第7期 麻生区地域福祉計画(令和6～8年度)・令和6年度評価

重点的な取組		令和6年度取組状況	取組状況に対する評価	事業の達成度	【参考】令和5年度取組状況(第6期計画より)
1	地域活動の参加につながる取組の推進	《地域活動に関わる人材の発掘と育成》 ・認知症サポーター養成講座:19回、710名 ・すくすくボランティア活動参加者:延べ167人 ・健康づくりボランティア養成教室:修了者10名 ・食生活改善推進員養成教室:修了者10名 ・シニアの社会参加支援:5回 52人 ・市民エンパワーメント研修:4回 21人 ・識字ボランティア研修:10回 157人 ・市民自主学級「新しい! ご隠居スタイルを目指して」:10回 275人 ・相談窓口検索サイト担当者会議:5回開催 《地域活動参加につなげる「ちいきのちからシート」の活用》 ・「ちいきのちからシート」実施回数:5回 《学生ボランティア活動の促進》 ・学生ボランティアに関する講義:3回 ・学生ボランティアマッチング数:52件	健康づくりのボランティアの育成や、シニアの生きがいに関わる講座の開催、地域デビューにつながる相談窓口の周知等、区民に対して地域活動への参加を促す機会を、幅広い分野で、かつ多様な形態で提供することができた。 ・健康づくりボランティアと食生活改善推進員養成教室では、仲間づくりがしやすい企画内容へ工夫し、10名のボランティアを育成した。 ・麻生市民館では、シニア世代の社会参加支援として、若者とのトークセッション等を実施し、キャリア開発や社会・地域貢献へとつながることができた。市民自主学級では「人生100年時代」を見据え、当事者同士がこれからの生きがいのヒントを探る講座を10回開催した。 ・相談窓口検索サイト担当者会議では、社協・SDO・やまゆりで共同ブースを出展し、相談窓口の周知と活用促進を図った。 ・田園調布学園大学の授業内で、地域のボランティア活動の意義を伝え、学生の福祉マインドの醸成に寄与した。	3 目標をほぼ達成	《地域活動に関わる人材の発掘と育成》 ・認知症サポーター養成講座:19回 459人 ・すくすく子育てボランティア養成教室:修了者 9名 ・すくすくボランティア活動支援:活動参加者 延べ 158人 ・健康づくりボランティア養成教室:修了者 17名 ・食生活改善推進員養成教室:修了者15名 ・シニアの社会参加支援:6回 97人 ・市民エンパワーメント研修:4回 86人 ・識字ボランティア研修:3回 44人 ・保育ボランティア研修:5回 54人 ・相談窓口・検索サイト担当者会議:3回開催 《地域活動参加につなげる「ちいきのちからシート」の活用》 ・「ちいきのちからシート」実施回数:3回 《学生ボランティア活動の促進》 ・学生ボランティアに関する講義:3回 ・学生ボランティアマッチング数:17件
2	保健福祉に関する情報発信の充実	《様々な媒体を用いた保健福祉に関する情報発信》 ・市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信:86件 ・麻生区役所企画課Xアカウントにおける保健福祉情報の発信:172件 《子育て情報の発信》 ・きゅっとハグあさお発行部数:5,000部 ・ちびっこおでかけMAP発行部数:11,000部 ・母子健康手帳交付時の情報提供 妊娠届出数:751名 ・直営健診実施時の情報提供 1歳6か月児及び3歳児健康診査受診数:1,625名	紙媒体・デジタルメディア・イベント等、多方面から保健福祉に関する情報を発信した。特にSNS「X(旧Twitter)」を組み合わせたことで、地域の保健福祉や子育て支援イベント、感染症の予防等、即時性の高い情報を区民に届けることができた。 ・「長寿日本ーその先へー」の企画では、区民まつりや福祉まつりでブースを設置し、市民の幸福感について意見を募集し、併せて保健福祉に関する情報を提供した。 ・希望のあった保護者に対して、子育てに関するおたよりや地域のイベント情報をメールで発信した。 ・母子健康手帳交付時にあわせて、「きゅっとハグあさお」「かわさき子育てガイドブック」などを配布し、「かわさき子育てアプリ」を紹介することで、子育て世帯に確実に情報を届けた。	3 目標をほぼ達成	《様々な媒体を用いた保健福祉に関する情報発信》 ・市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信:80件 ・麻生区役所企画課Xアカウントにおける保健福祉情報の発信:85件 《子育て情報の発信》 ・きゅっとハグあさお発行部数:5,600部 ・ちびっこおでかけMAP発行部数:11,000部
3	認知症にやさしいまちづくりの推進	《認知症に関する普及啓発》 ・あさおオレンジプロジェクト:3回 ・そなえる認知症I(講演会) ・そなえる認知症II(講演会) ・麻生図書館・柿生分館パネル展示:2回 ・百合丘小学校図書室展示:1回 ・認知症サポーター養成講座17回(再掲) ・RUNTOMO+あさお実行委員会へ出席:9回 ・キャラバン・メイト連絡会:2回 ・認知症にやさしいまち表彰:9店舗 ・認知症フォローアップ講座:1回 《認知症訪問支援事業》 ・認知症訪問支援チーム員会議:7回(定例6回、臨時1回) ・令和6年度新規対象者:5件 《認知症等行方不明SOSネットワーク事業》 ・区内発生件数:2件	認知症への理解促進と地域ぐるみの支援体制の強化に向けて、小学校や企業・店舗等と連携し学習機会の提供や環境づくりの取組を実施することができた。 ・「キャラバン・メイト連絡会」を2回開催し、認知症サポーター養成講座の開催に向けての情報交換、サポーター養成講座受講後の活躍の場についての検討を実施した。 ・図書館(麻生図書館、柿生分館)、図書室(百合丘小学校、片平小学校)での展示により、市民に対し、認知症に関する理解促進が図られた。 ・地域で思いのある企業・店舗に対して認知症サポーター養成講座を実施し、認知症にやさしいお店として9店舗表彰する等、地域の環境づくりを進めた。 ・市民向けフォロー講座「そなえる認知症」を開催し、継続的な学習機会を提供した。 ・訪問支援チーム員会議を隔月で開催し、支援対象者が医療介護等の支援につながるよう専門職による検討を行った。 ・行方不明が区内で発生した場合に対応できるよう、庁内等関係機関で情報共有を図った。	3 目標をほぼ達成	《認知症に関する普及啓発》 ・あさおオレンジプロジェクト:3回 ・認知症講演会:2回 ・麻生図書館・柿生分館パネル展示:2回 ・柿生小学校図書室展示:1回 ・認知症サポーター養成講座:19回(再掲) ・RUNTOMO+あさお実行委員会へ出席:10回 ・キャラバン・メイト連絡会:2回 ・認知症にやさしいまち表彰:1店舗 ・認知症フォローアップ講座:1回 《認知症訪問支援事業》 ・認知症訪問支援チーム員会議:6回(定例5回、臨時1回) ・令和5年度新規対象者:3件 《認知症等行方不明SOSネットワーク事業》 ・区内発生件数:0件
4	地域における見守り力の向上	《ひとり暮らし等高齢者見守り事業》 ・見守り対象者:25名 《地域福祉の担い手による地域情報交換会》 ・地域情報交換会の実施 6回 （地域みまもり支援センター・民生委員児童委員協議会主体） ・地域情報交換会の実施 1回(地域みまもり支援センター主体) 《麻生区高齢者見守りネットワーク事業》 ・通報件数:13件 ・協力事業所:28業者 ・情報交換会:2回 《川崎市地域みまもりネットワーク事業》 ・通報件数:4件	民生委員児童委員や町内会自治会、地域包括支援センター、社会福祉協議会、地域の企業等、地域に関わる団体、機関が顔を合わせる機会を設けることで、地域のつながりづくりや見守りネットワーク体制の連携強化を進めることができた。 ・ひとり暮らし等高齢者見守り事業として、見守り対象者を選定するとともに、地域包括支援センター連絡会議でリストを共有した。 ・地域の関係者がお互いの活動を理解し合うとともに、地域資源の共有や地域課題に対する認識を共有するために「地域情報交換会」を合計7回開催した。 ・生活支援コーディネーターについて市政だより区版にて、区内5カ所の事業所の取組等を紹介し、区民に周知を図った。 ・見守りネットワークについて、情報交換会を2回開催し、協力事業者及び警察、消防等の関係機関との情報共有、連携強化を図った。	3 目標をほぼ達成	《ひとり暮らし等高齢者見守り事業》 ・見守り対象者:25名 《地域福祉の担い手による地域情報交換会》 ・地域情報交換会の実施 2回 《麻生区高齢者見守りネットワーク事業》 ・通報件数:4件 ・協力事業所:26業者 ・情報交換会:1回 《川崎市地域みまもりネットワーク事業》 ・通報件数:6件

特筆すべき取組を含めた総評(令和6～8年度)令和6年度

「地域活動の参加につながる取組の推進」は、地域の活動団体からメンバーの高齢化による担い手不足という課題が上がる一方で、定年後も働き続けるシニア世代や共働き世帯が増加しているため、地域デビューの窓口による情報提供とともに、限られた時間の中で誰もが柔軟に参加できる活動の受け皿づくりが必要である。「保健福祉に関する情報発信の充実」は、SNS「X」や「かわさき子育てアプリ」等を活用して、子育て世帯中心に情報を届けるとともに、デジタルに不慣れな層に対しても情報が届くよう配慮していく必要がある。「認知症にやさしいまちづくりの推進」は、引き続き地域の中で認知症に理解ある団体、サポーターを発掘し、認知症になっても安心して暮らせる地域を目指していく必要がある。「地域における見守り力の向上」は、対象者の個人情報の扱いに注意しつつ、生活支援コーディネーターや地域の事業者等との連携を図りながら、地域の見守り体制の強化を図っていく必要がある。

引き続き、麻生区らしい地域包括ケアシステム構築に向けて、区民と行政、関係機関、企業等が連携し、各取組を推進していくことが求められる。

麻生区区民アンケート 概要版 (抜粋)

令和 7（2025）年 1 月

川 崎 市 麻 生 区

○ 調査の目的

区民の意識、区政に対する意見やニーズ等を調査することにより、区政運営及び地域課題解決に向けた取組の参考とすることを目的とする。

○ 調査の方法

- (1) 調査地域 …… 川崎市麻生区全域
- (2) 調査対象 …… 麻生区在住の満 18 歳以上の外国人含む男女個人
- (3) 標 本 数 …… 2,000 サンプル
- (4) 標本抽出方法 …… 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法 …… 郵送法（郵送による調査票の配布及び回収）
- (6) 調査期間 …… 令和 6 年 7 月 12 日(金)～令和 6 年 8 月 12 日（月）
（最終回収日：令和 6 年 12 月 10 日(火)）
- (7) 調査委託機関 …… 山上技術士事務所

○ 調査の項目

- (1) 麻生区について
- (2) 麻生区役所について
- (3) 麻生区内の市民利用施設について
- (4) 地域活動について
- (5) 町内会・自治会について
- (6) 暮らし、生活について
- (7) 災害への備えについて
- (8) 新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりについて
- (9) 自由意見

○ 回収状況

調査票配布数	回収数	うち白紙回答	有効回収数	有効回収率
2,000	1,139	1	1,138	56.9%

○ 報告書の見方

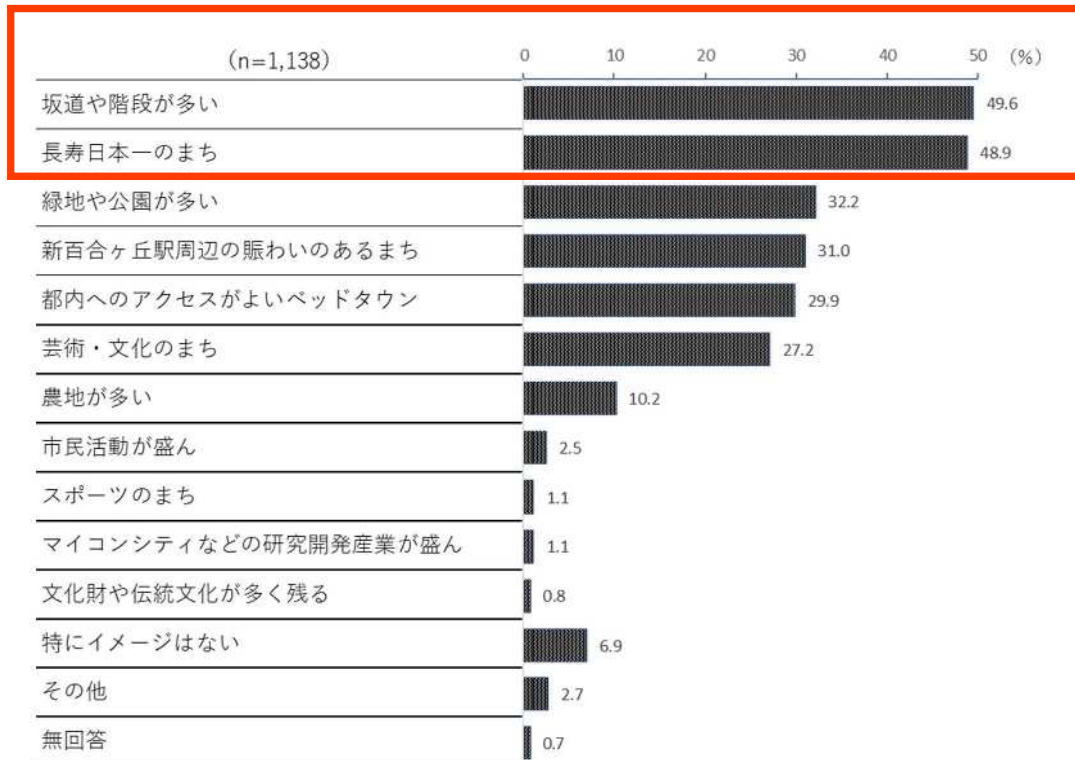
図表中の「n」は、各質問の回答者数を示す。回答の比率(%)は、n を基数として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入して小数点以下第 1 位まで示した。したがって、選択肢の中から 1 つだけ回答を選ぶ質問であっても、すべての選択肢の比率の合計が 100.0%にならない場合がある。また、選択肢の中から複数の回答を選ぶ質問では、すべての選択肢の比率を合計すると通常 100.0%を超える。

1. 麻生区について

(1) 麻生区のイメージ

麻生区のイメージとしては、「坂道や階段が多い」(49.6%)、「長寿日本一のまち」(48.9%)がほぼ半数を占めている。次いで「緑地や公園が多い」(32.2%)、「新百合ヶ丘駅周辺の賑わいのあるまち」(31.0%)、「都内へのアクセスがよいベッドタウン」(29.9%)、「芸術・文化のまち」(27.2%)が3割前後を占めている。

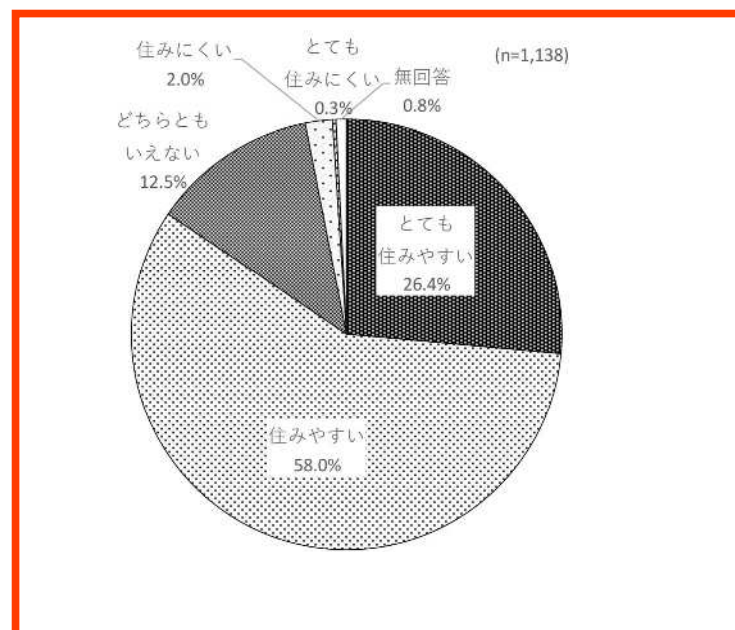
(3つまで複数回答)



(2) 麻生区の住みやすさ

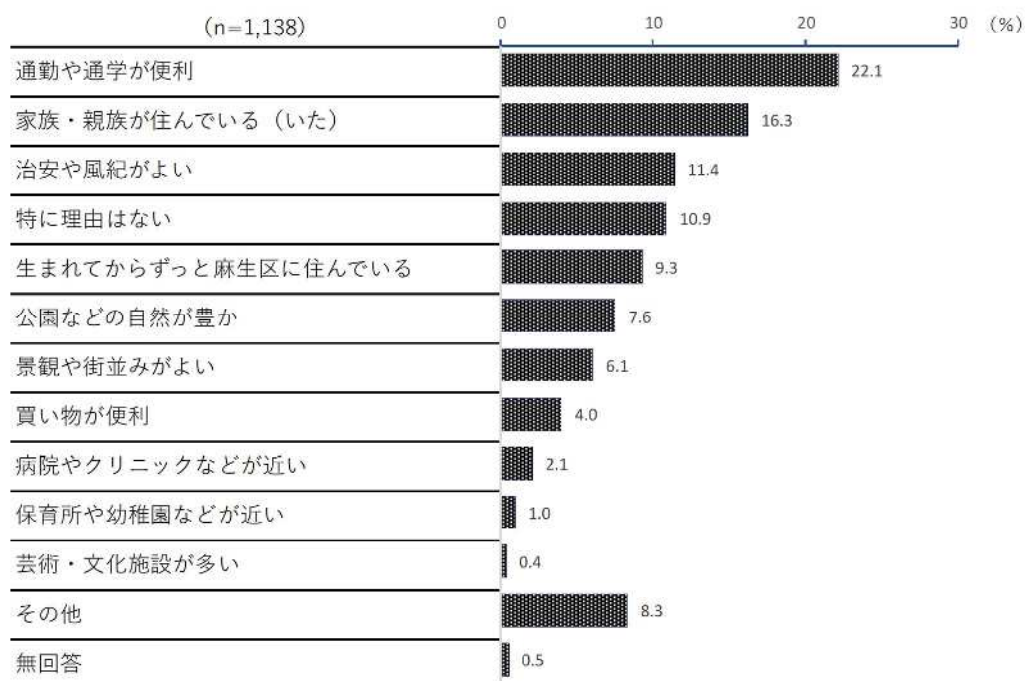
麻生区の住みやすさは、「とても住みやすい」(26.4%)、「住みやすい」(58.0%)で両者を合わせると8割を超えている。

一方、「住みにくい」(2.0%)、「とても住みにくい」(0.3%)は両者を合わせても2.3%に過ぎない。



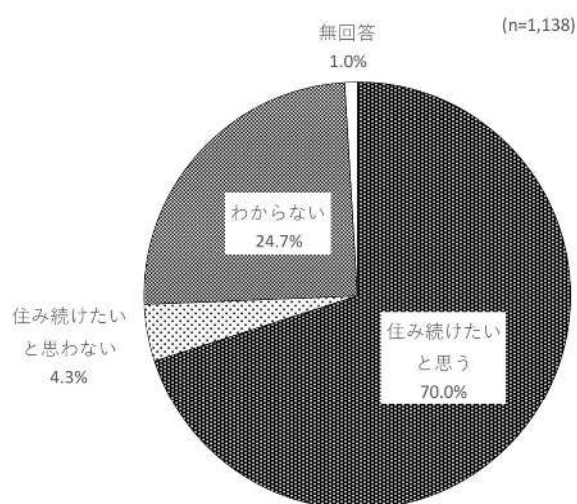
(3) 麻生区に住むことを選んだ理由や住み始める前のイメージ

麻生区に住むことを選んだ理由・住み始める前のイメージは、「通勤や通学が便利」(22.1%)が最も多く、次いで「家族・親族が住んでいる(いた)」(16.3%)、「治安や風紀がよい」(11.4%)、「特に理由はない」(10.9%)となっている。



(4) 定住意向

麻生区での定住意向をみると、「住み続けたいと思う」は 70.0%を占める。次いで、「わからない」が 24.7%となっている。一方、「住み続けたいと思わない」は 4.3%と少ない。



(5) 麻生区の生活での満足点・不満点

麻生区の生活で満足している点は、「治安や風紀」(55.1%)が最も多く、次いで「買い物の利便性」(43.8%)、「バスや電車など交通の便」(37.1%)、「病院やクリニックなど医療機関」(29.9%)、「緑地や公園」(28.9%)となっている。

一方、麻生区の生活で不満に思っている点は、「バスや電車など交通の便」(24.3%)が最も多く、次いで「道路・河川の整備や管理」(21.4%)、「買い物の利便性」(20.9%)、「子育て支援」(12.7%)、「高齢者支援」(11.7%)となっている。

麻生区の生活で満足点、不満点について、「満足」の比率と「不満」の比率との差をみると、「治安や風紀」(51.0 ポイント)がプラスで最も大きく、満足が不満を大きく上回っている。次いで「買い物の利便性」(22.8 ポイント)で、満足が不満を上回っているものの「不満」(20.9%)も少なくない。さらに、「緑地や公園」(21.4 ポイント)、「病院やクリニックなど医療機関」(20.1 ポイント)となっている。

一方、「道路・河川の整備や管理」(▲ 18.7 ポイント)がマイナスで最も大きく、次いで「子育て支援」(▲ 11.2 ポイント)、「防災対策」(▲ 9.7 ポイント)、「高齢者支援」(▲ 8.3 ポイント)で、不満が満足を上回っている。

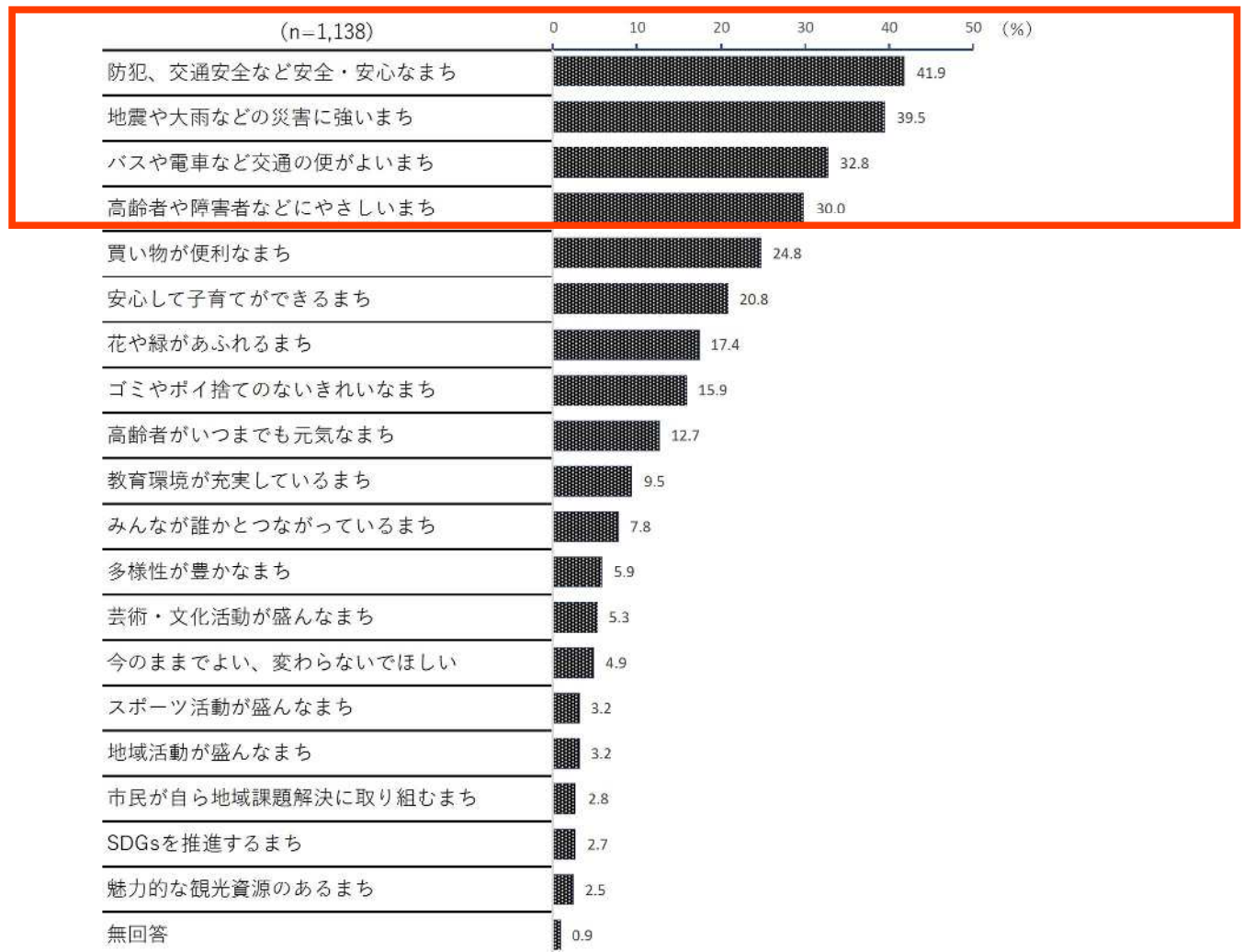
(満足点・不満点それぞれ3つまで複数回答)



(6) 麻生区がどのようなまちになってほしいか

麻生区がこれから(おおよそ10年後)にどのようなまちになってほしいかを聞いたところ、「防犯、交通安全など安全・安心なまち」(41.9%)が最も多く、次いで「地震や大雨などの災害に強いまち」(39.5%)、「バスや電車など交通の便がよいまち」(32.8%)が 3 割を超え、さらに、「高齢者や障害者などにやさしいまち」(30.0%)、「買い物が便利なまち」(24.8%)、「安心して子育てができるまち」(20.8%)が 2 割を超えている。

(3つまで複数回答)

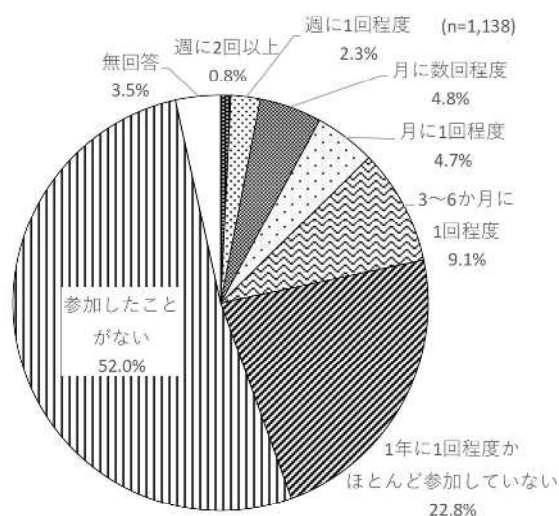


4. 地域活動について

(1) 地域活動の参加頻度

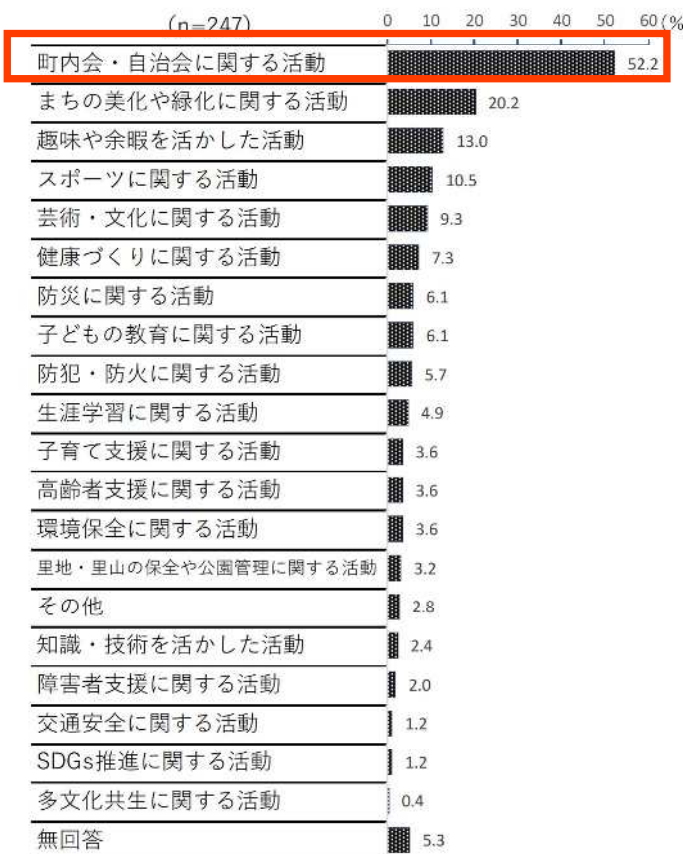
地域活動の参加頻度を見ると、概ね参加頻度が高くなるほど少なくなる傾向にある。

「3～6 か月に 1 回程度」以上の頻度での参加を合わせても 2 割程度に過ぎないが、「参加したことがない」(52.0%)は過半数を占め、「1 年に 1 回程度かほとんど参加していない」(22.8%)と合わせると全体の 4 分の 3 程度を占める。



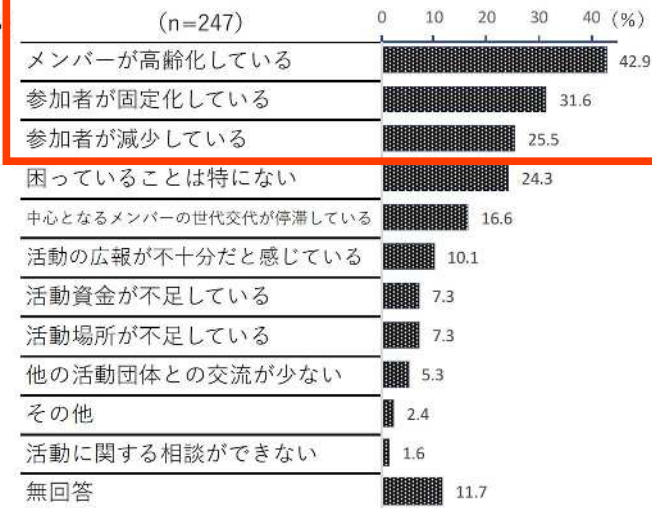
(2) 地域活動の分野

地域活動の参加頻度で「参加したことがない」、「1年に1回程度かほとんど参加していない」以外を回答した方(247人)に、参加している地域活動の分野を聞いたところ、「町内会・自治会に関する活動」(52.2%)が過半数を占めて最も多く、次いで、「まちの美化や緑化に関する活動」(20.2%)、「趣味や余暇を活かした活動」(13.0%)、「スポーツに関する活動」(10.5%)となっている。(複数回答)



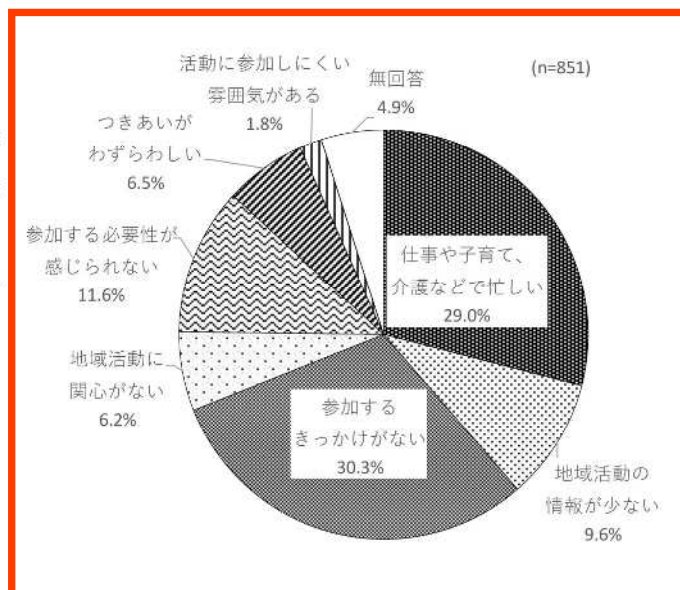
(3) 地域活動で困っている事

地域活動の参加頻度で「参加したことがない」、「1年に1回程度かほとんど参加していない」以外を回答した方(247人)に、地域活動で困っている事を聞いたところ、「メンバーが高齢化している」(42.9%)が最も多く、次いで、「参加者が固定化している」(31.6%)、「参加者が減少している」(25.5%)となっている。一方、「困っていることは特にない」(24.3%)が2割を超えている。(複数回答)



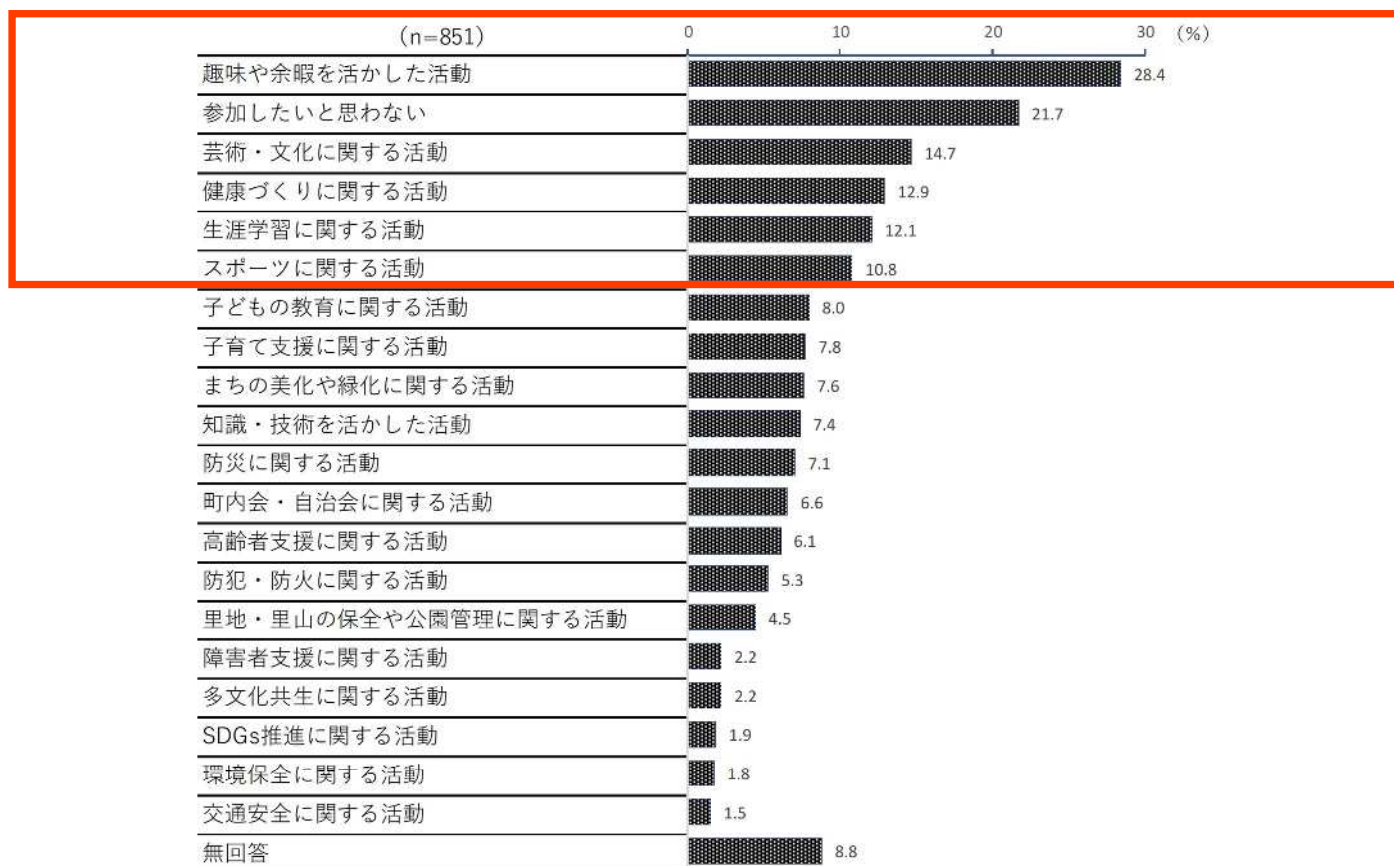
(4) 地域活動に参加しない理由

地域活動の参加頻度で「参加したことがない」、「1年に1回程度かほとんど参加していない」と回答した方(851人)に、地域活動に参加しない理由を聞いたところ、「参加するきっかけがない」(30.3%)が3割を超え最も多く、次いで、「仕事や子育て、介護などで忙しい」(29.0%)となっている。



(5) 参加したい地域活動

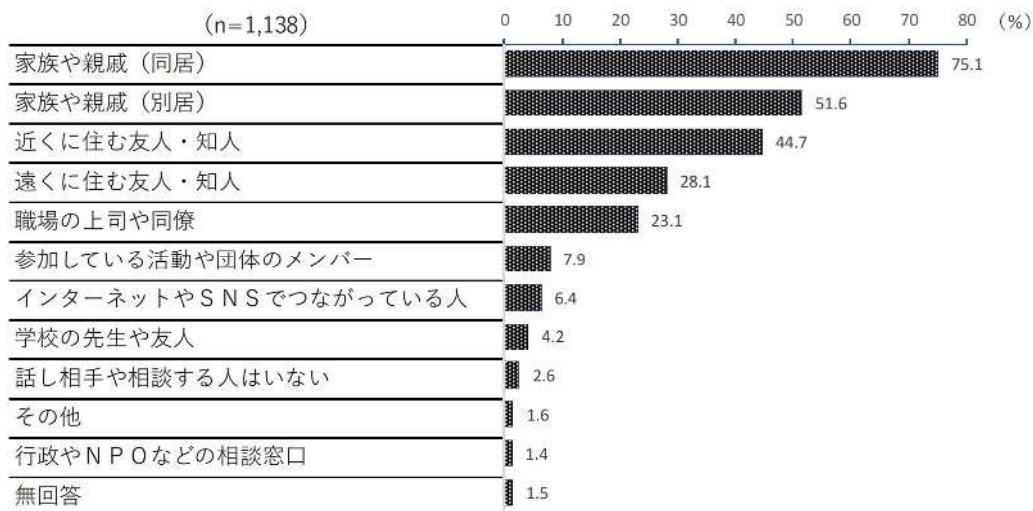
地域活動の参加頻度で「参加したことがない」、「1年に1回程度かほとんど参加していない」と回答した方(851人)に、参加したい地域活動を聞いたところ、「趣味や余暇を活かした活動」(28.4%)が最も多いが、「参加したいと思わない」(21.7%)も2割を超えている。このほか、「芸術・文化に関する活動」(14.7%)、「健康づくりに関する活動」(12.9%)、「生涯学習に関する活動」(12.1%)、「スポーツに関する活動」(10.8%)となっている。(3つまで複数回答)



6. 暮らし、生活について

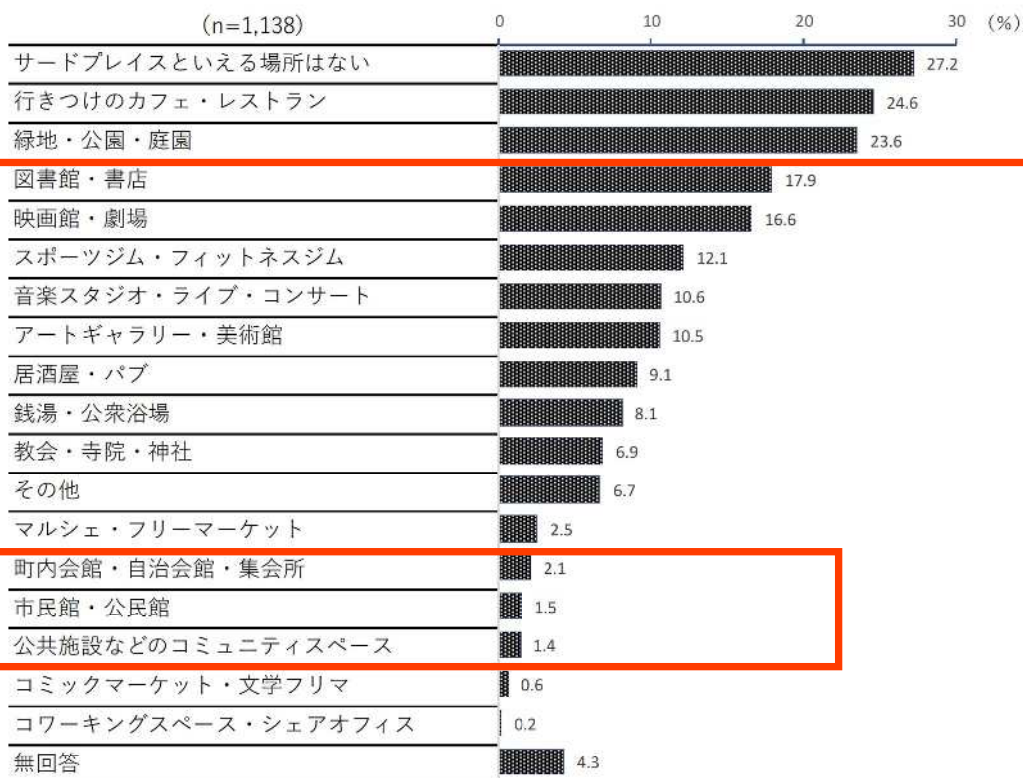
(1) 話し相手や相談できる人の有無

日常的な話し相手や困りごとを相談できる人としては、「家族や親戚(同居)」(75.1%)が最も多く、「家族や親戚(別居)」(51.6%)も過半数を占めるほか、「近くに住む友人・知人」(44.7%)、「遠くに住む友人・知人」(28.1%)、「職場の上司や同僚」(23.1%)となっている。(複数回答)



(2) サードプレイスについて

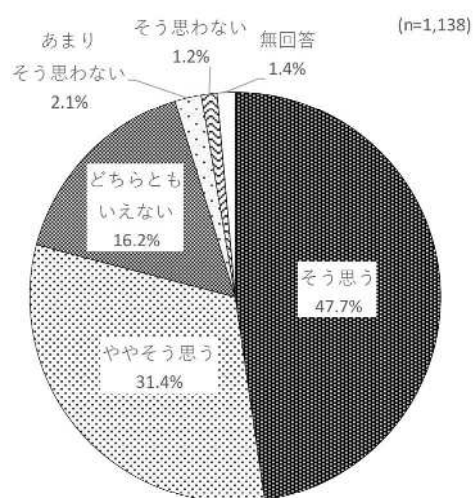
サードプレイスとしては、「サードプレイスといえる場所はない」(27.2%)が最も多く、次いで、「行きつけのカフェ・レストラン」(24.6%)、「緑地・公園・庭園」(23.6%)が2割を超えている。(複数回答)



(3) 社会とのつながりの影響について

社会とのつながりが人生の幸福感、生活の充実感や心身の健康に良い影響があると思うか聞いたところ、「そう思う」(47.7%)、「ややそう思う」(31.4%)となり、両者を合わせた肯定的な回答がほぼ8割を占める。

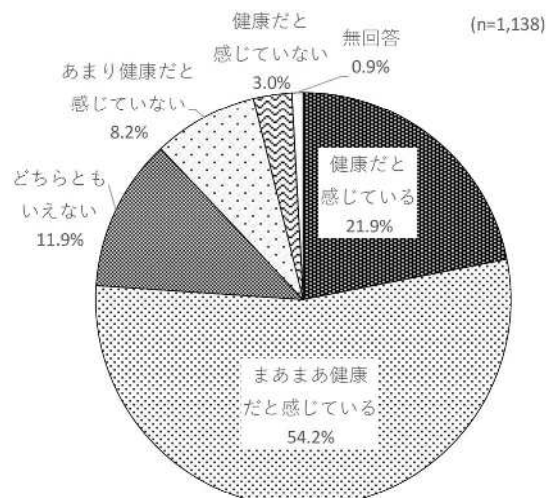
一方、「あまりそう思わない」(2.1%)、「そう思わない」(1.2%)を合わせた否定的な回答は3.3%に過ぎない。



(4) 健康状態について

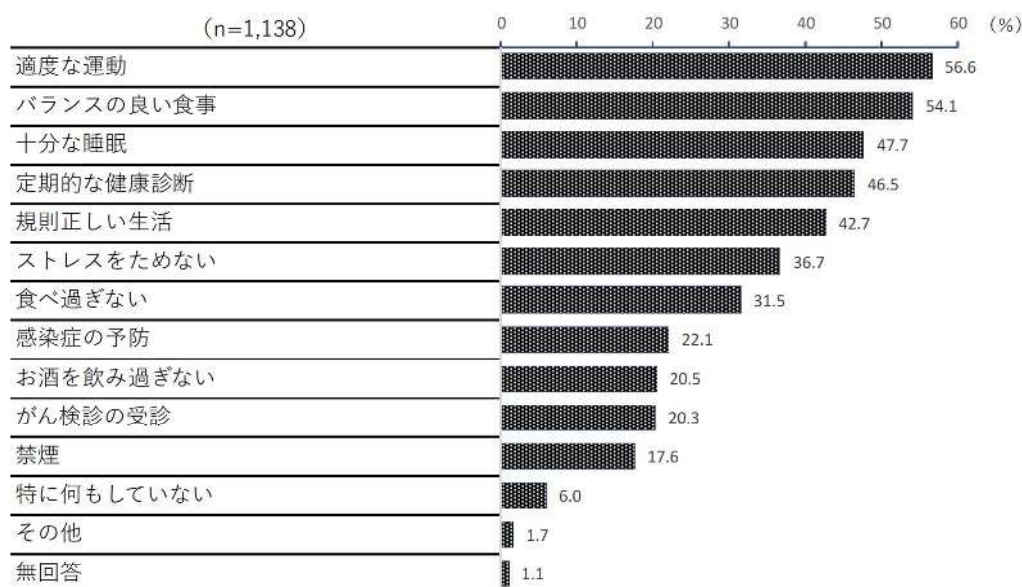
自分の健康状態は、「まあまあ健康だと感じている」(54.2%)が過半数を占め最も多く、次いで、「健康だと感じている」(21.9%)となり、両者を合わせると全体の4分の3を占める。

一方、「あまり健康だと感じていない」(8.2%)、「健康だと感じていない」(3.0%)であり、両者を合わせると1割を超えている。



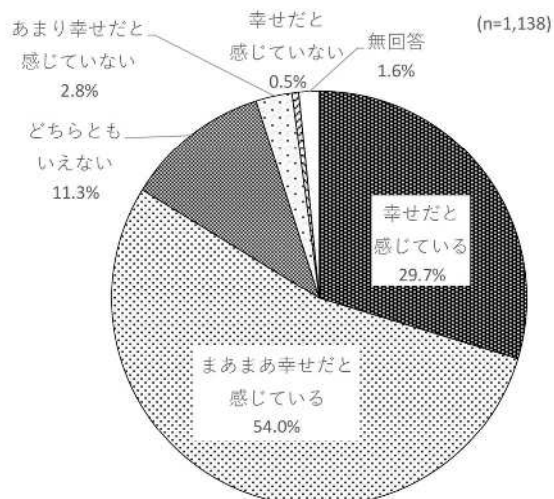
(5) 健康のために意識して行っていること

健康のために意識して行っていることは、「適度な運動」(56.6%)、「バランスの良い食事」(54.1%)が過半数を占め、さらに、「十分な睡眠」(47.7%)、「定期的な健康診断」(46.5%)、「規則正しい生活」(42.7%)が4割を超えている。(複数回答)



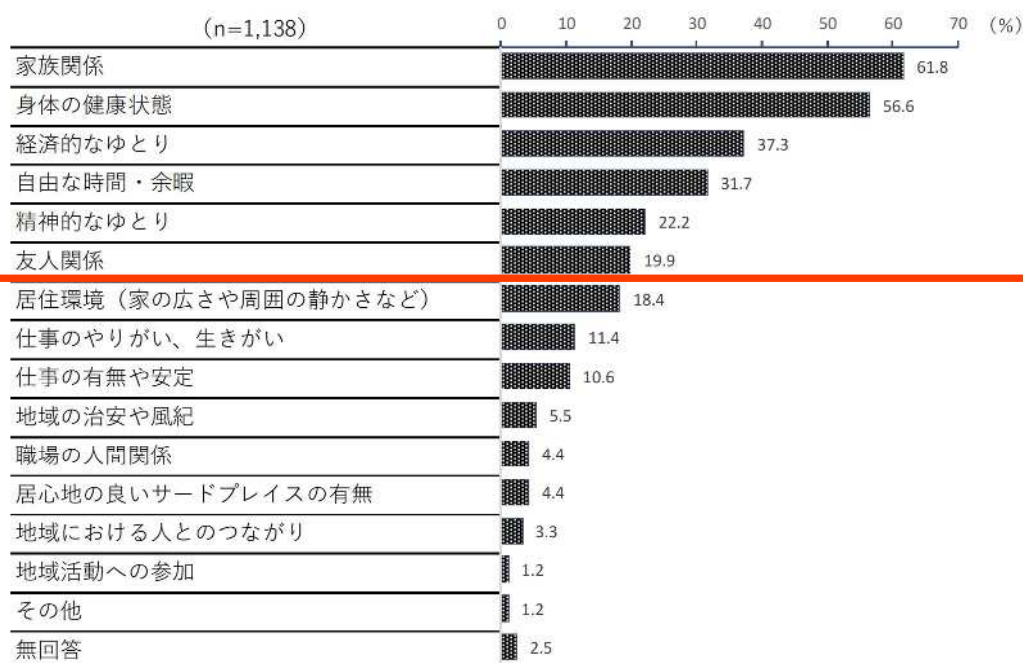
(6) 現在の生活での幸福感

現在の生活での幸福感は、「まあまあ幸せだと感じている」(54.0%)が過半数を占め最も多く、次いで、「幸せだと感じている」(29.7%)となり、両者を合わせると8割を超えている。



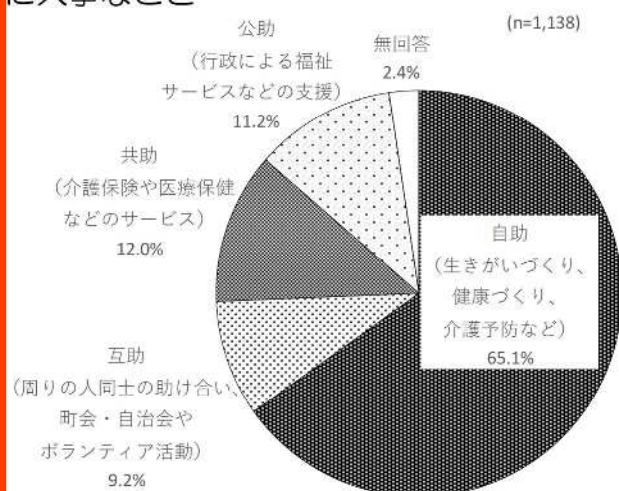
(7) 幸せだと感じる要因

幸せだと感じる要因として影響が大きいものは、「家族関係」(61.8%)が6割を超えて最も多く、次いで、「身体・健康状態」(56.6%)が過半数を占めるほか、「経済的なゆとり」(37.3%)、「自由な時間・余暇」(31.7%)が3割を超えている。(3つまで複数回答)



(8) 自分らしく生き生きと暮らしていくために大事なこと

住み慣れた地域の中で、自分らしく生き生きと暮らしていくために大事なことは、「自助(生きがいづくり、健康づくり、介護予防など)」(65.1%)が6割を超えて最も多く、次いで、「共助(介護保険や医療保健などのサービス)」(12.0%)、「公助(行政による福祉サービスなどの支援)」(11.2%)、「互助(周りの人同士の助け合い、町会・自治会やボランティア活動)」(9.2%)となっている。



川崎市
高齢者生活状況調査
報告書 (抜粋)
(2024年調査)

令和7年3月
川崎市 健康福祉局 長寿社会部
高齢者在宅サービス課

調査概要

1. 調査概要

1－1. 調査目的

高齢者生活状況調査を通じて、ひとり暮らし等高齢者の日常生活の実態を把握することにより、見守り対象者の選定及び今後のひとり暮らし等高齢者に対する事業検討の基礎資料を得ることを目的とする。

※令和3年度から調査名称を高齢者生活状況調査に変更
(旧名称：ひとり暮らし等高齢者実態調査)

1－2. 調査対象

川崎市内在住、住民基本台帳記載の75歳以上の介護保険サービス等を受けていないひとり暮らし等高齢者。

(実際の調査で、住民基本台帳と生活実態が異なる場合があるため調査対象外の方を調査している場合もある。)

1－3. 調査方法

郵送調査。実施後、未回答者に対し、民生委員の協力により対象者宅を訪問し再調査を行う予定。

1－4. 調査期間

令和6年11月～令和7年2月

1－5. 調査主体

川崎市 健康福祉局 長寿社会部 高齢者在宅サービス課

1－6. 調査協力

川崎市民生委員児童委員協議会

1－7. 調査項目

- ① 基本属性（生年月日、居住区、世帯構成）
- ② 日常生活に関する調査（外出の頻度、会話の回数、相談できる方の有無等）
- ③ 緊急時の連絡先
- ④ 調査不能の理由

1－8. 報告書の留意事項

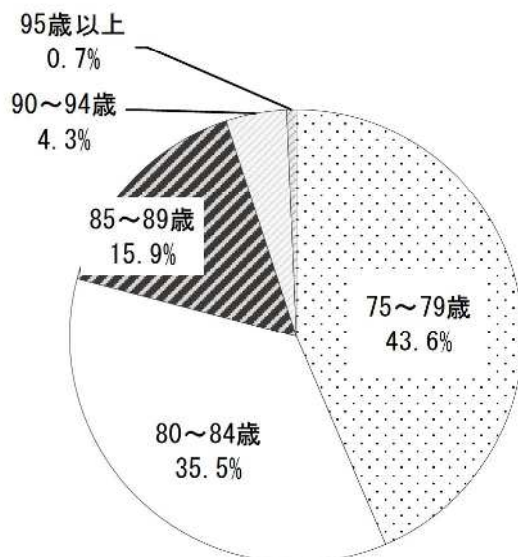
構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。

年齢に無回答がいるため全市の数は無回答を含んだ数となり、各軸の合計とは一致しない。

属性について

2. 属性について

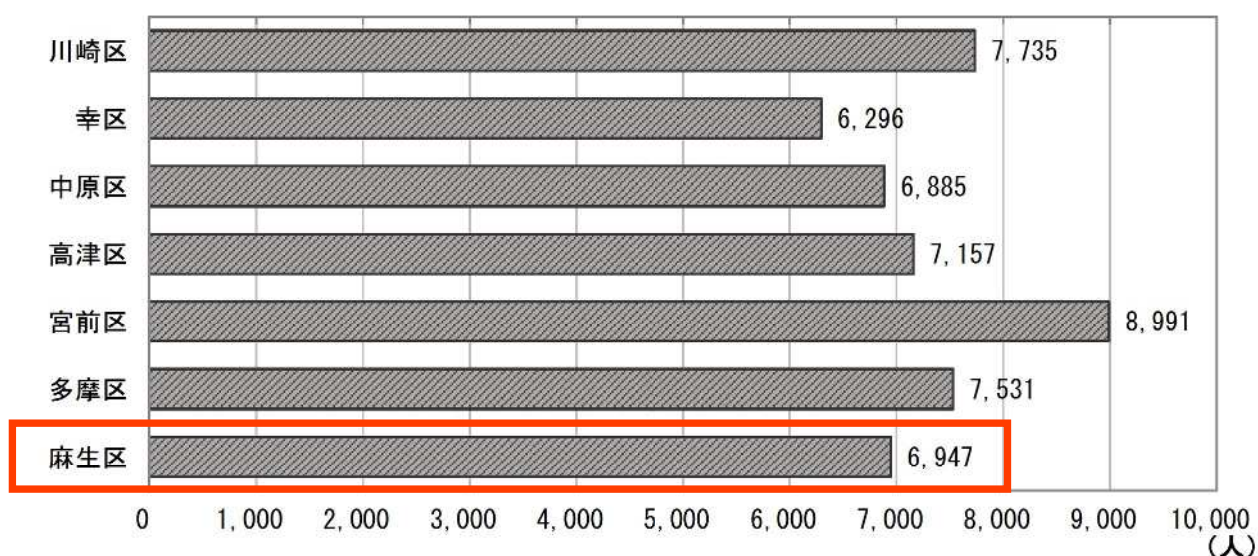
2-1. 年代構成（全市 n=51,542）



年代	人数
75～79歳	22,453
80～84歳	18,323
85～89歳	8,182
90～94歳	2,230
95歳以上	354
合計	51,542

- ・各年代の割合は、75～79歳 43.6%、80～84歳 35.5%、85～89歳 15.9%、90～94歳 4.3%、95歳以上 0.7%となっている。
- ・75歳～84歳までで、全体の約8割となっており、前回調査と同様の傾向となっている。

2-2. 居住区（全市 n=51,542）

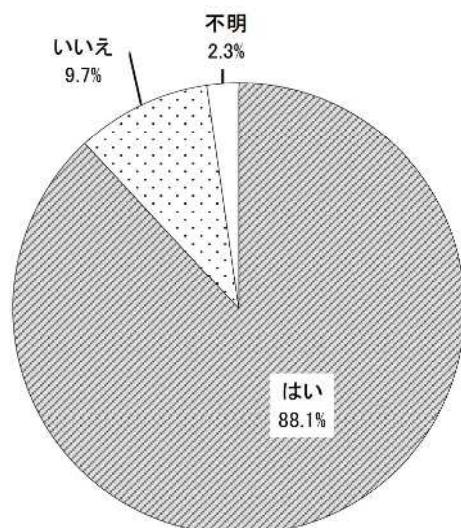


- ・居住区の中で最も回答が多いのは、宮前区（8,991人）、次いで川崎区（7,735人）となっている。
- ・前回調査と比較し、全体的に回答数の増加傾向にある。
- ・前回調査で回答が一番少なかった中原区は回答数が約1,700増と一番の伸び率となった。

外出の頻度について

3. 外出の頻度について

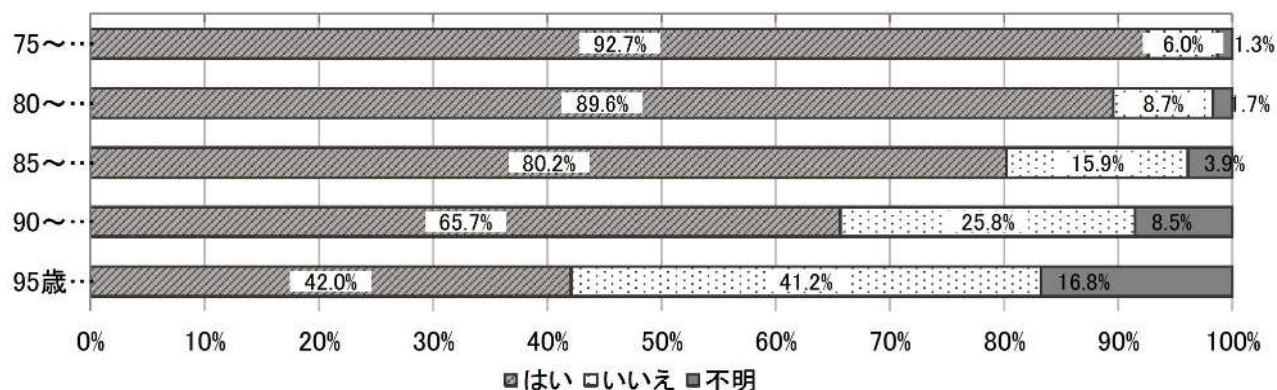
3-1. 「現在、週に2回以上は外出していますか」（全市 n=51,542）



回答	人数
はい	45,387
いいえ	4,980
不明	1,175
合計	51,542

- ・週に2回以上は外出しているかについて、はいと回答した方の割合は88.1%、いいえと回答した方は9.7%であり、約9割の方が週2回以上外出している。

3-2. 「現在、週に2回以上は外出していますか」年代別比較（全市 n=51,542）



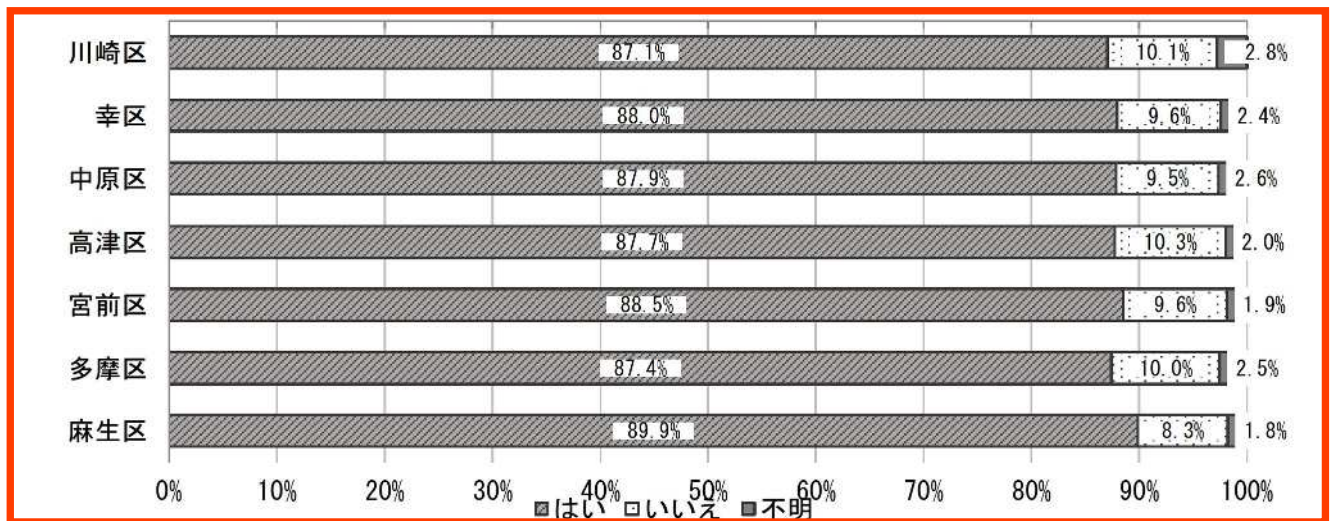
回答	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上
はい	20,803	16,410	6,562	1,464	148
いいえ	1,355	1,600	1,302	576	145
不明	295	313	318	190	59
合計	22,453	18,323	8,182	2,230	352

- ・年代別にみると、75～79歳の92.7%が週に2回以上は外出していると回答しているのに対し、95歳以上は42.0%と半分以下になっており、年代が上がるにつれ外出する頻度が減っている。
- ・前回調査と同様の傾向になっているが、全体的に週に2回以上は外出していると回答した方は減少した。

外出の頻度について

3-3. 「現在、週に2回以上は外出していますか」居住区別比較（全市 n=51,542）

他の区より麻生区は若干高い

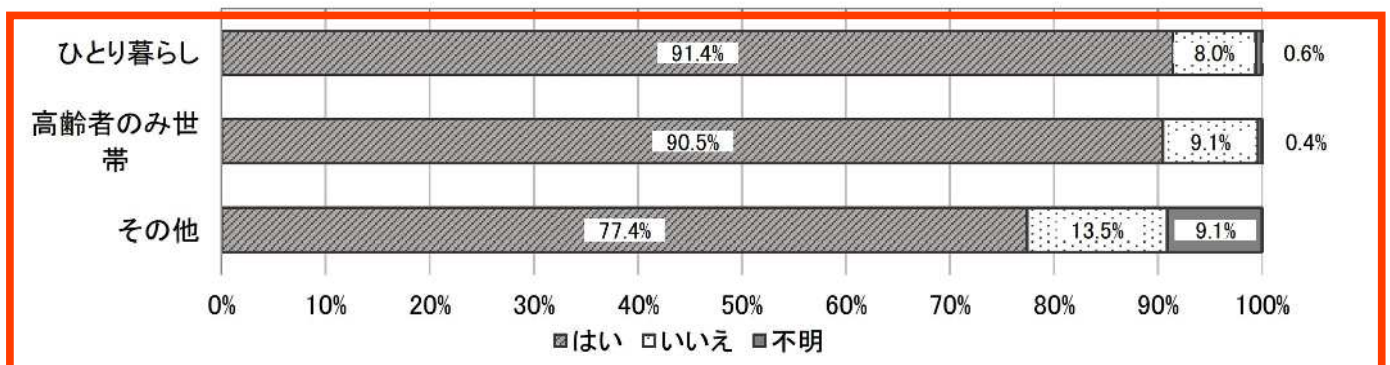


回答	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
はい	6,735	5,538	6,050	6,279	7,958	6,583	6,244
いいえ	784	605	654	737	865	756	579
不明	216	153	181	141	168	192	124
合計	7,735	6,296	6,885	7,157	8,991	7,531	6,947

- ・週に2回以上外出したと回答した方が最も高いのは麻生区（89.9%）、最も低いのは川崎区（87.1%）となっており、前回調査と比べ全体的に外出回数の増加傾向にある。

3-4. 「現在、週に2回以上は外出していますか」世帯構成別比較（全市 n=44,970）

高齢者のみ世帯より、ひとり暮らしの方が若干高い



回答	ひとり暮らし	高齢者のみ世帯	その他
はい	15,097	21,965	8,325
いいえ	1,314	2,217	1,449
不明	101	95	979
合計	16,512	24,277	10,753

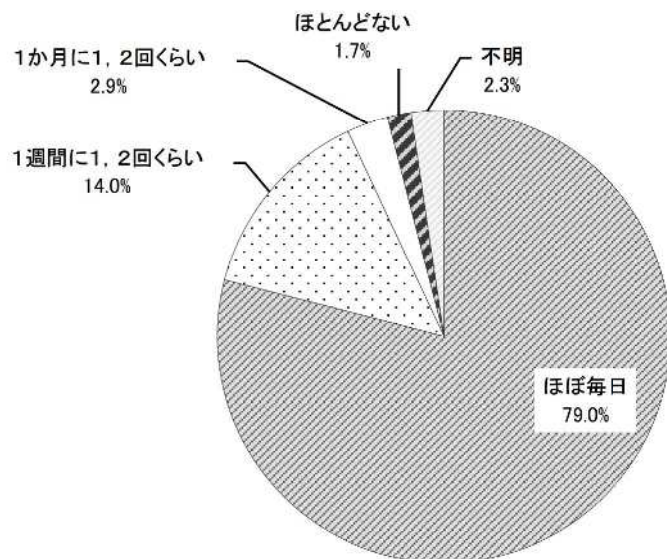
- ・世帯構成別にみると、週に2回以上は外出していると回答している方の割合は、ひとり暮らしが91.4%、高齢者のみ世帯が90.5%、その他が77.4%となっている。
- ・前回調査と比較し、ひとり暮らしを含めた高齢者世帯は外出増加傾向だが、その他は4.3ポイント減少している。

会話の回数について

4. 会話の回数について

「現在、どなたかと会話する回数はどれくらいですか（電話、メールなども含めます）」

4-1. 「会話する回数はどれくらいですか」（全市 n=51,542）

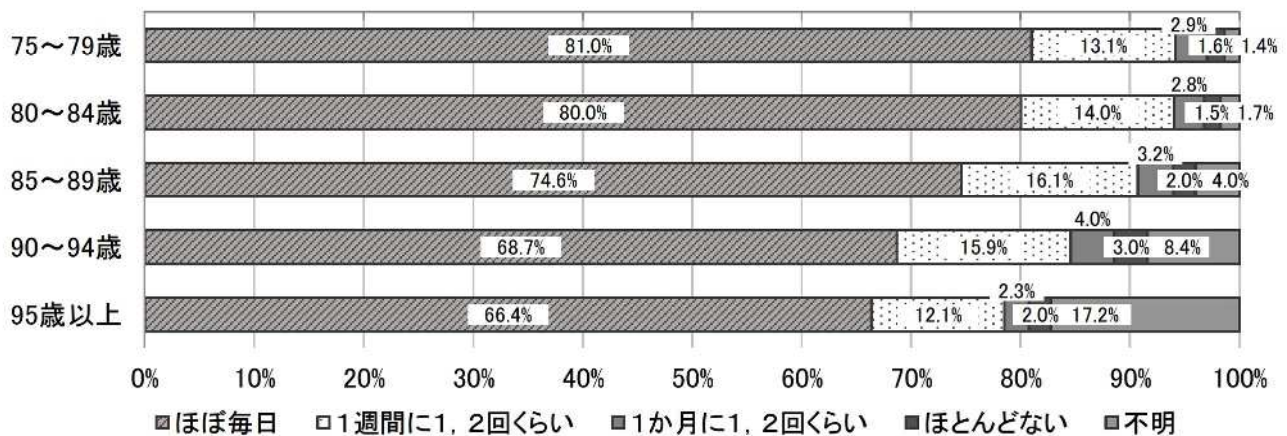


回答	人数
ほぼ毎日	40,729
1週間に1, 2回くらい	7,223
1か月に1, 2回くらい	1,520
ほとんどない	870
不明	1,200
合計	51,542

・会話の回数は、ほぼ毎日と答えた方の割合が79.0%、1週間に1, 2回くらいが14.0%、1か月に1, 2回くらいが2.9%、ほとんどないが1.7%となっている。

会話の回数について

4-2. 「会話する回数はどれくらいですか」年代別比較（全市 n=51,542）



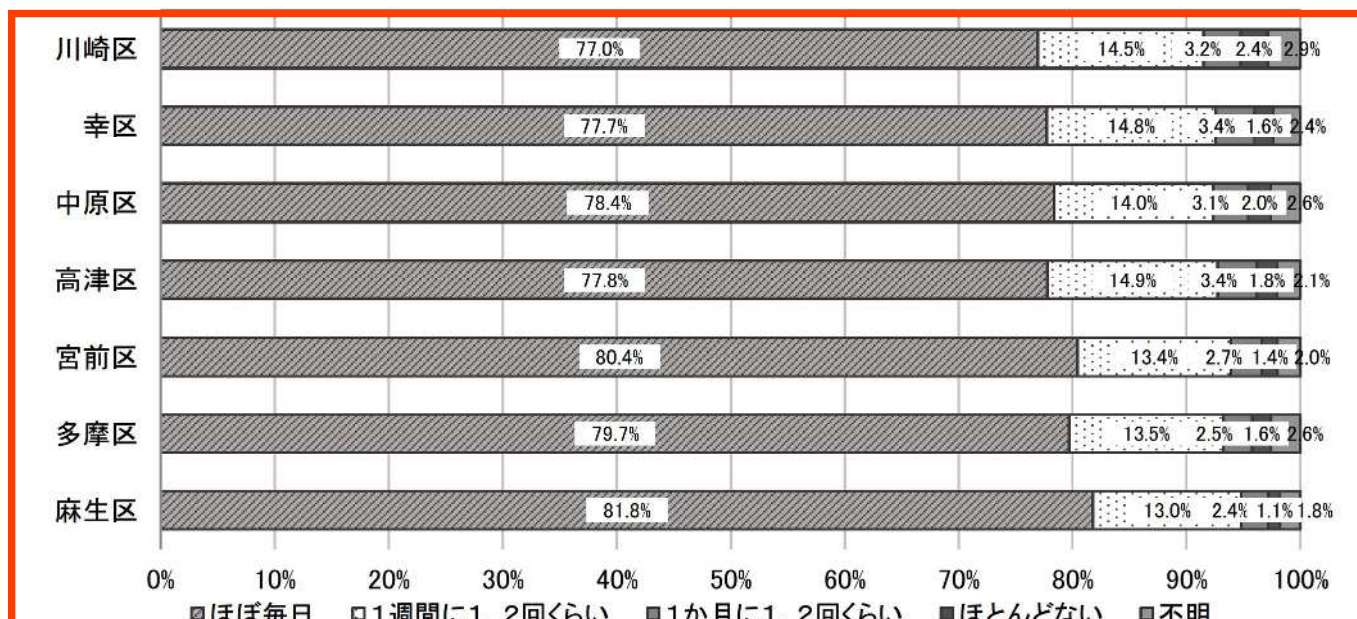
回答	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上
ほぼ毎日	18,190	14,667	6,105	1,532	235
1週間に1, 2回くらい	2,947	2,561	1,318	354	43
1か月に1, 2回くらい	654	504	265	89	8
ほとんどない	357	273	165	68	7
不明	305	318	329	187	61
合計	22,453	18,323	8,182	2,230	354

- ・年代別にみると、ほぼ毎日と答えた方の割合は、75～79歳で81.0%、80～84歳で80.0%、85～89歳で74.6%、90～94歳で68.7%、95歳以上で66.4%となっており、年代が上がるにつれてのほぼ毎日と回答した方が減少している。
- ・前回調査と比較し、84歳以下でほぼ毎日と答えた方の割合は微増しているが、90～94歳で5.4ポイント減、95歳以上で12.0ポイント減と大幅な減少傾向にある。

会話の回数について

4-3. 「会話する回数はどれくらいですか」居住区別比較（全市 n=51,542）

麻生区は他区より高い



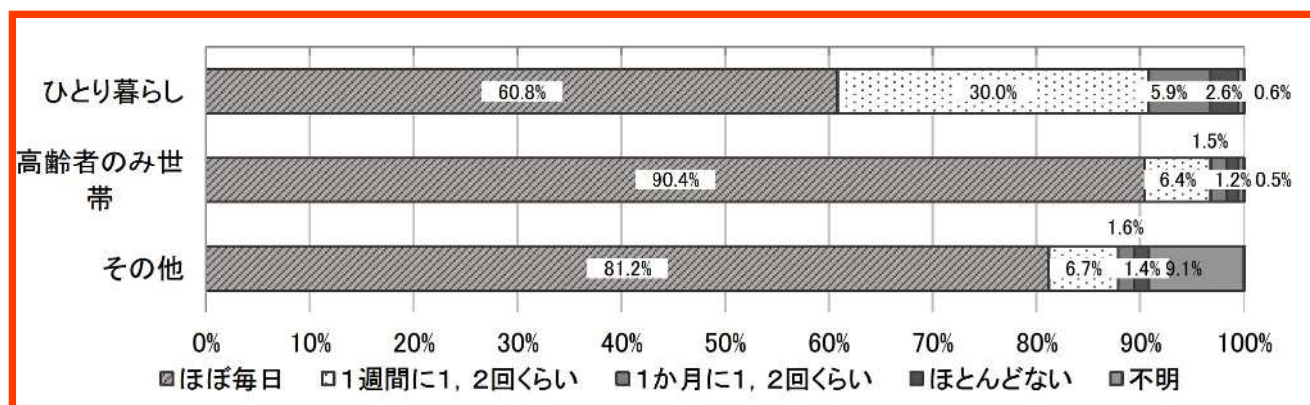
回答	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
ほぼ毎日	5,953	4,895	5,397	5,568	7,233	6,002	5,681
1週間に1, 2回くらい	1,125	934	962	1,069	1,209	1,020	904
1か月に1, 2回くらい	251	214	210	245	243	191	166
ほとんどない	184	102	135	127	127	122	73
不明	222	151	181	148	179	196	123
合計	7,735	6,296	6,885	7,157	8,991	7,531	6,947

- ・居住区別にみると、ほぼ毎日と答えた方の割合が最も高かったのは麻生区の81.8%で、最も低いのは川崎地区で77.0%となっている。
- ・ほぼ毎日、1週間に1、2回くらいと答えた方を合わせると、全ての居住区で9割以上となっている。
- ・前回調査と比較し、ほぼ毎日と答えた方の割合は全体的に増加傾向にある。

会話の回数について

4-4. 「会話する回数はどれくらいですか」世帯構成別比較（全市 n=51,542）

ひとり暮らしより高齢者のみ世帯の方が会話回数多い



回答	ひとり暮らし	高齢者のみ世帯	その他
ほぼ毎日	10,044	21,954	8,731
1週間に1, 2回くらい	4,954	1,550	719
1か月に1, 2回くらい	981	372	167
ほとんどない	437	280	153
不明	96	121	983
合計	16,512	24,277	10,753

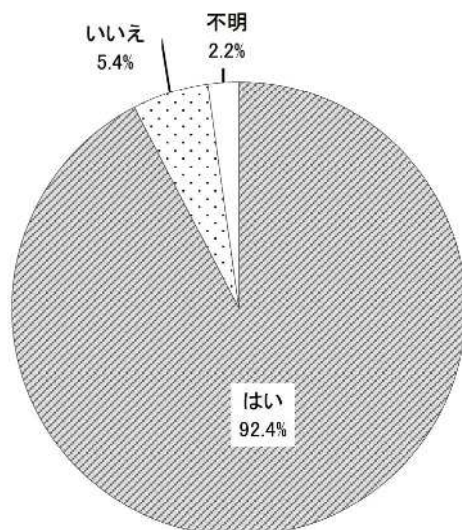
- ・世帯構成別にみると、ほぼ毎日と答えた方の割合はひとり暮らしが60.8%、高齢者のみ世帯が90.4%、その他が81.2%となった。
- ・前回調査と比較し、ひとり暮らしと高齢者のみ世帯は同様の傾向となったが、その他でほぼ毎日と答えた方の割合は6.6ポイント減少している。
- ・ほぼ毎日、1週間に1, 2回くらいと答えた方を合わせると、その他のみ9割を下回る結果となった。

相談相手の有無について

5. 相談相手の有無について

「現在、困ったときに相談できる方や手伝ってくれる方はいらっしゃいますか」

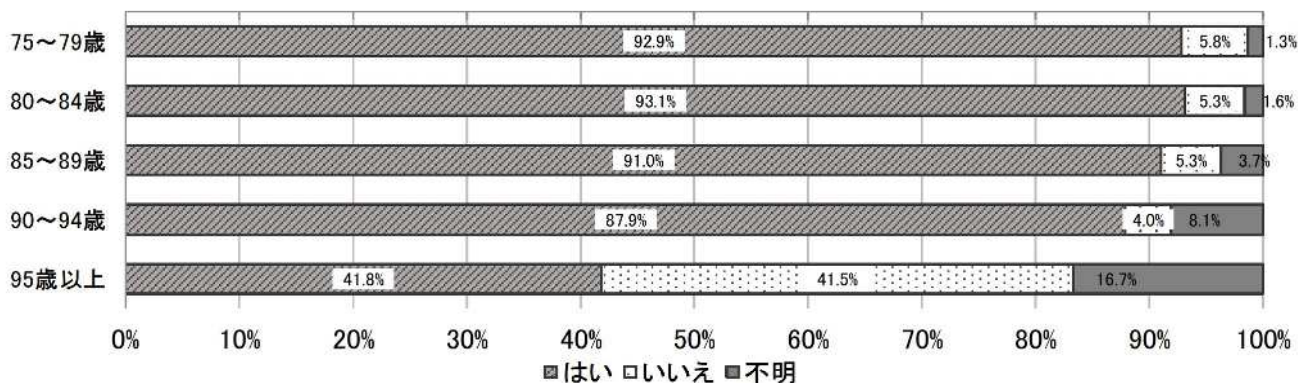
5-1. 「相談できる方はいますか」(全市 n=51,542)



回答	人数
はい	47,610
いいえ	2,799
不明	1,133
合計	51,542

・相談できる方がいるかどうかでは、はいと回答した方の割合が92.4%、いいえと答えた方の割合が5.4%となっており、9割以上の方が困った時に相談できる相手がいると答えている。

5-2. 「相談できる方はいますか」年代別比較(全市 n=51,542)



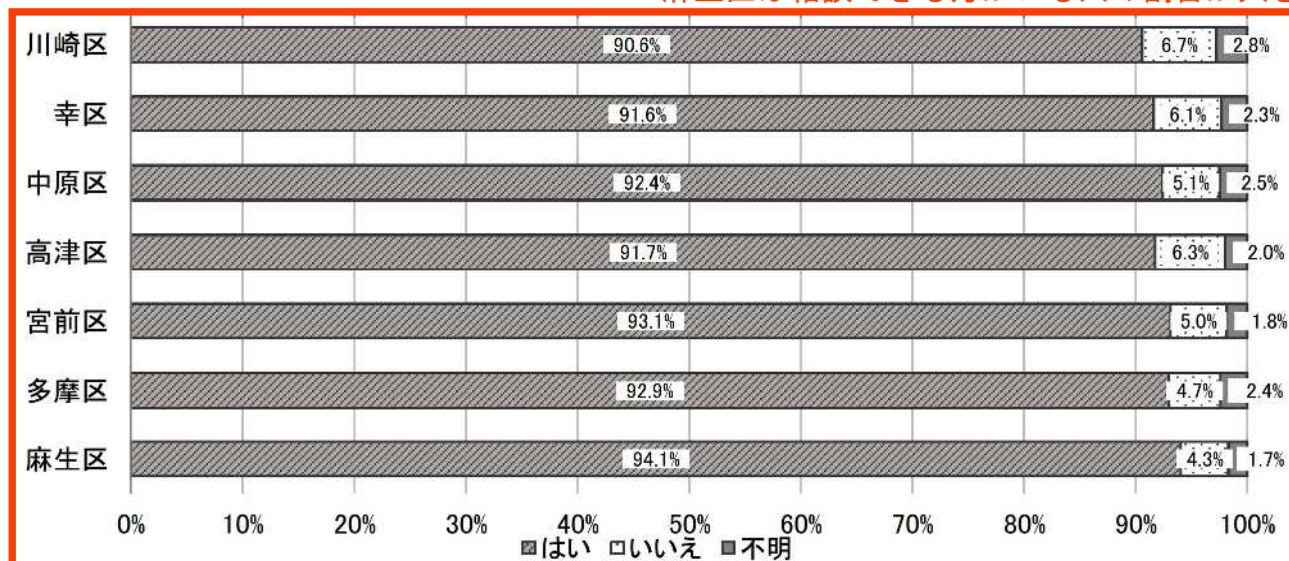
回答	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上
はい	20,849	17,062	7,449	1,960	148
いいえ	1,307	967	430	90	147
不明	297	294	303	180	59
合計	22,453	18,323	8,182	2,230	354

・前回調査と比較し、相談できる方がいると回答した方の割合は84歳以下では微増しているが、85歳以上では減少傾向にある。
・95歳以上では、はいと回答した方が前回調査から55.1ポイントと大幅に減少している。

相談相手の有無について

5-3. 「相談できる方はいますか」 居住区別比較（全市 n=51,542）

麻生区は相談できる方がいる人の割合が大きい



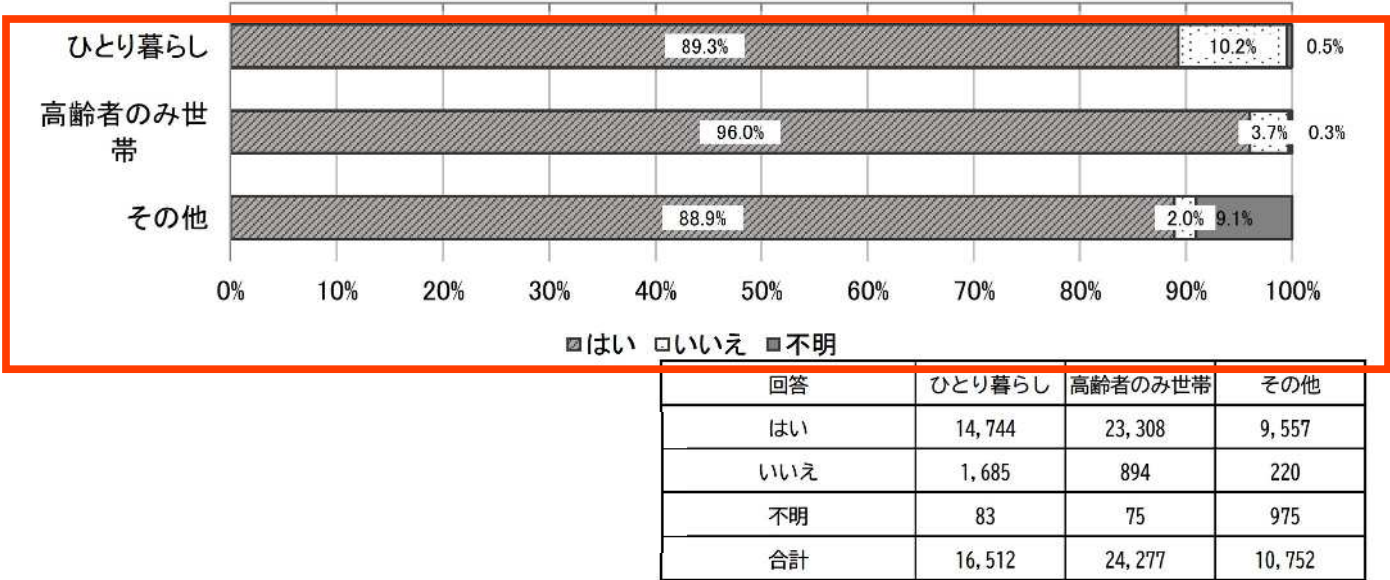
回答	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
はい	7,006	5,768	6,362	6,566	8,374	7,000	6,534
いいえ	516	382	352	448	452	352	297
不明	213	146	171	143	165	179	116
合計	7,735	6,296	6,885	7,157	8,991	7,531	6,947

- ・居住区別に見ると、相談できる方がいると回答した方の割合が最も高いのは麻生区で94.1%、最も低かったのは川崎地区で90.6%となっている。
- ・前回調査と比較し、相談できる方がいると回答した方の割合は減少傾向にあるが、中原区のみ0.5ポイント増加している。

相談相手の有無について

5-4. 「相談できる方はいますか」世帯構成別比較（全市 n=51,542）

「高齢者のみ世帯」の方が、相談できる方がいると回答した人の割合が大きい



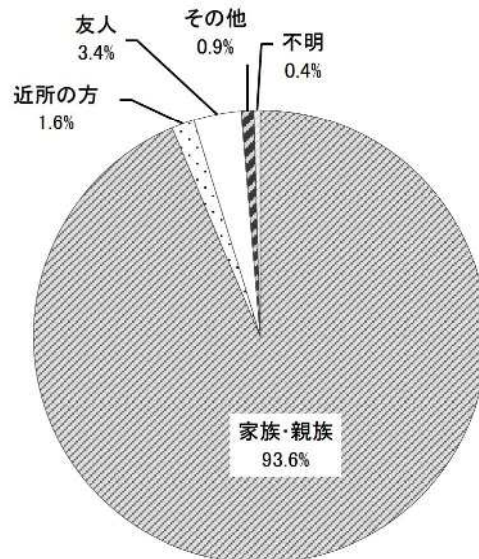
- ・世帯構成別に見ると、相談できる方がいると回答した方の割合は、ひとり暮らしが89.3%、高齢者のみ世帯が96.0%、その他が88.9%となっており、全ての世帯でも約9割の方が相談できる方がいると回答している。
- ・前回調査と比較し、相談できる方がいると回答した方の割合は、その他が7.7ポイント減少しているが、ひとり暮らし、高齢者のみの世帯ではやや増加している。

具体的な相談相手について

6. 具体的な相談相手について

「相談相手が居る場合、具体的に」

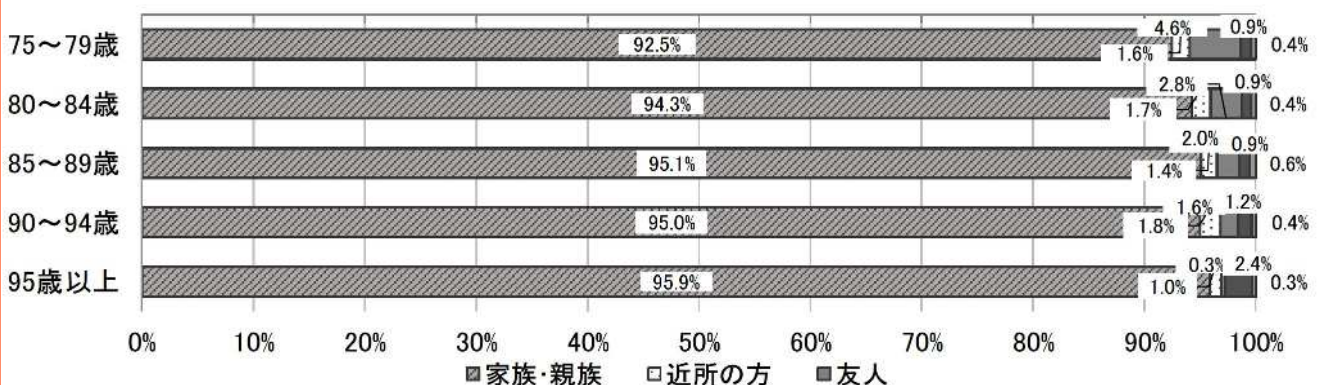
6-1. 「具体的な相談相手」(全市 n=47,610)



回答	人数
家族・親族	44,583
近所の方	774
友人	1,612
その他	431
不明	210
合計	47,610

・具体的な相談相手は、家族・親族が93.6%で最も多くなっている。次いで、友人3.4%、近所の方1.6%、その他0.9%となっている。

6-2. 「具体的な相談相手」年代別比較(全市 n=47,610)



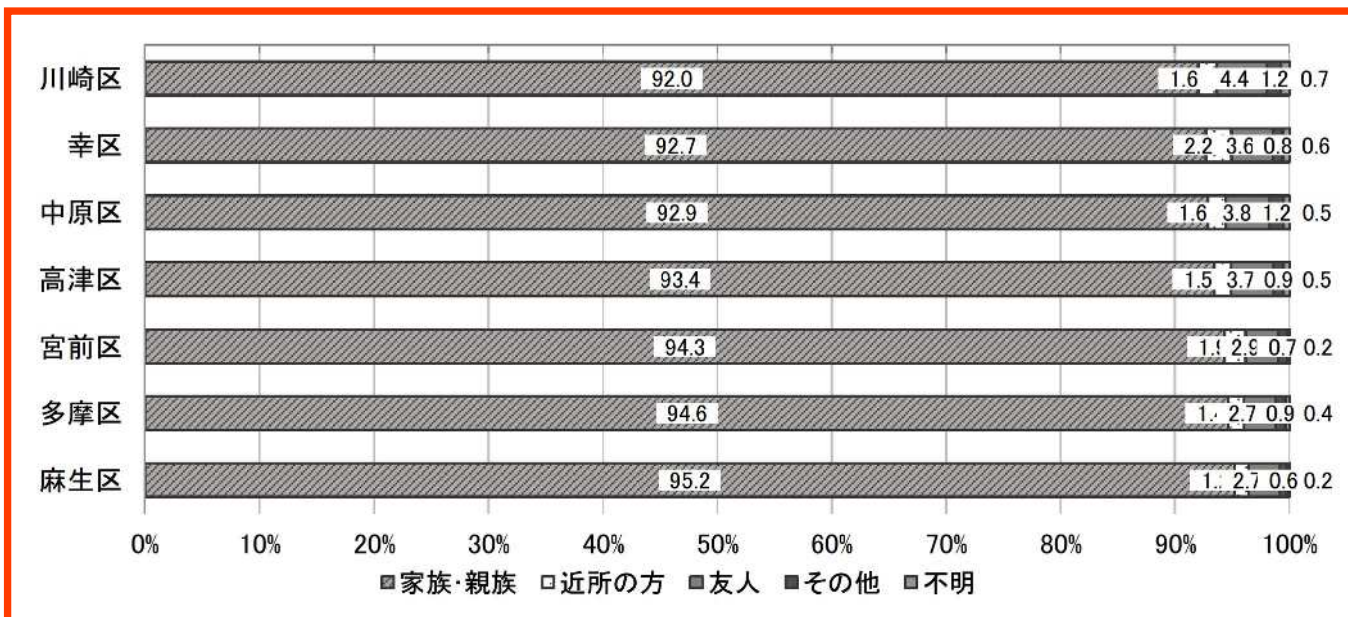
回答	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上
家族・親族	16,447	13,954	6,653	1,575	235
近所の方	366	305	141	23	5
友人	708	390	127	22	0
その他	184	123	72	17	8
不明	177	164	73	13	3
合計	17,882	14,936	7,066	1,650	251

・年齢別に見ると、家族・親族と回答した方の割合は年齢が上がるごとに増加傾向にある。

具体的な相談相手について

麻生区は、特に「家族・親族」を相談相手としている回答の割合が大きい

6-3. 「具体的な相談相手」居住区別比較（全市 n=47,610）

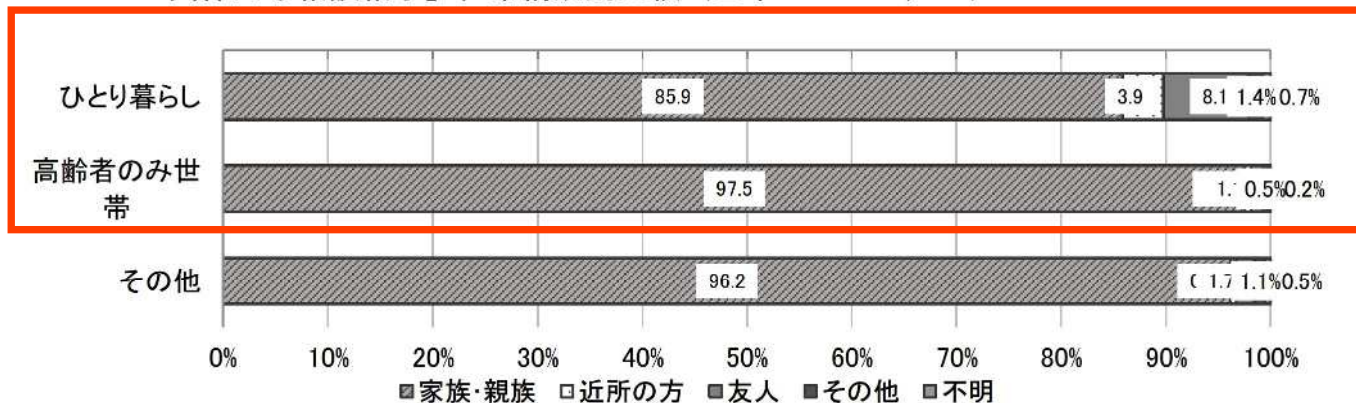


回答	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
家族・親族	6,448	5,348	5,909	6,135	7,898	6,625	6,220
近所の方	114	128	100	97	156	98	81
友人	308	210	244	242	239	191	178
その他	86	48	76	58	62	61	40
不明	50	34	33	34	19	25	15
合計	7,006	5,768	6,362	6,566	8,374	7,000	6,534

- ・居住区別に見ると、家族・親族と回答した方の割合が最も高いのは麻生区で 95.2%、最も低いのは川崎地区で 92.0%となっているが、家族・親族と回答した方の割合は全ての居住区で 9 割を超えている。
- ・前回調査と比較し、家族・親族の割合は若干増加している。

具体的な相談相手について

6-4. 「具体的な相談相手」世帯構成別比較（全市 n=47,610）



回答	ひとり暮らし	高齢者のみ世帯	その他
家族・親族	12,661	22,731	9,191
近所の方	573	148	53
友人	1,200	246	166
その他	205	125	101
不明	105	58	47
合計	14,744	23,308	9,558

・世帯構成別に見ると、家族・親族と回答した方の割合が最も高いのは高齢者のみ世帯で97.5%、次いで、その他が96.2%、ひとり暮らしが85.9%となっており、ひとり暮らしは近所の方や友人に相談する割合が他の世帯構成よりも高くなっている。

サワッ

ジブン・ジマン

自分自慢

してみませんか？



資料4-1

地域包括ケアシステムを構築して『地ケア』

「長寿日本一その先へ」～自己肯定感 って つながり！？～

令和5年に公表された平均寿命では、麻生区が男女ともに「長寿日本一」となりました！（男性84.0歳、女性89.2歳）

麻生区では、長寿日本一という結果を受け、健康寿命の延伸を目指した取組に加え、「長寿日本一その先へ」と題し、幸せに着目した取組を進めています。

令和6年度に「幸せ」（こころの豊かさ、ゆとり）についてお聞きしたところ、多くの方が**家族、友人、地域等との「つながり」に幸せを感じていました**。また、令和6年度に実施した麻生区区民アンケートにおいても80%以上の方が「幸せ」と回答しています。

「幸福度」が高いと「自己肯定感※」が高いといわれています。今回のアンケートを機に、**自己肯定感を考えるきっかけになり、より幸せを感じていただければ幸いです**。

※自己肯定感とは、「ありのままの自分を受け入れる感覚」「今の自分を認める感覚」のことを指します。

能力や自分が置かれた環境に左右されることなく、自分を肯定することで生まれる感情です。

Q1. あなたが自慢できることはなんですか（各項目 最大3つまで選択してください）

※可能であれば（ ）に、内容を簡単に記入してください。

（例）家族（同居の父母）、持ち物（こだわりのマイホーム）、など

-1 ひと自慢

- | | |
|--|---|
| ☐ 家族（ ） | ☐ 友人・仲間（ ） |
| ☐ 地域の人（ ） | ☐ 職場の人（ ） |
| ☐ 学校の先生・恩師（ ） | ☐ 行政やNPOなどの職員（ ） |
| ☐ 参加している活動や団体のメンバー（ ） | |
| ☐ その他（ ） | |

-2 コト（もの）自慢

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ 住んでいる地域（ ） | ☐ 資格（ ） |
| ☐ 経験（ ） | ☐ 夢・目標（ ） |
| ☐ コレクション（ ） | ☐ 思い出の品（ ） |
| ☐ 持ち物（ ） | ☐ その他（ ） |

-3 こんなことやっています・なんでも 自慢

- | | |
|--------------------------------------|--|
| ☐ 健康です！（ ） | ☐ 幸せです！（ ） |
| ☐ 生きています！（ ） | ☐ ポジティブ思考です！（ ） |
| ☐ 日々の活動・習慣（ ） | ☐ 特技（ ） |
| ☐ 地域活動（ ） | ☐ 趣味（ ） |
| ☐ 仕事・職業（ ） | ☐ スポーツ（ ） |
| ☐ 文化・芸術（ ） | ☐ 推し活（ ） |
| ☐ 学業・語学（ ） | ☐ その他（ ） |

裏へ

Q2. 自慢できることの内容やエピソードなど、自由に記載してください

(最大 200 字程度)

Q3. 麻生区のこと、好きですか？（できればその理由も）

- ☐大好きです（ ） ☐好きです（ ）
☐普通（ ） ☐あまり好きではない（ ）
☐好きではない(T_T)（ ） ☐その他（ ）

Q4. 年齢等を教えてください

- ☐小学生以下 ☐中学生 ☐15歳～19歳 ☐20歳～39歳
☐40歳～64歳 ☐65歳～74歳 ☐75歳～84歳 ☐85歳以上
☐回答しない

Q5. 性別を教えてください

- ☐男性 ☐女性 ☐回答しない

Q6. お住まいを教えてください

- ☐麻生区内 ☐川崎市内（麻生区外） ☐川崎市外

Q7. インタビュー取材について

記載いただいた自慢について、後日インタビューさせていただく場合があります。
もしインタビューにご協力いただける場合は、下記枠内にご連絡先をご記入ください。
（インタビュー内容は麻生区 HP や麻生区チャンネル等での公開を検討しています。）

メールアドレス：

アンケート用紙は
地域ケア推進課 4 階 41 番窓口まで
ご提出をお願いします。
2次元コードからも回答いただけます。



麻生区役所 地域みまもり支援センター
地域ケア推進課 企画調整係
電話: 044-965-5303



— 麻生区男女長寿日本1 「**その先へ**」—
で、その先の目指す**ゴール**は？

祝
麻生区
長寿日本一

「長寿日本一」を追い風に、健康づくり施策を
推進していきましょう！（「かきまるくん」より）

健康長寿日本1？

「誰じゃなければいけないの？」

麻生区は平均寿命が男女ともに
『日本一』になりました♪

【麻生区 男性：84.0歳 女性：89.2歳】

※厚生労働省「令和2年市区町村別生命表」公表データ
次回生命表の更新は2028年です
5年間は「長寿日本一」です
男女とも「日本一」は初めてです

麻生区として目指す「ゴ〜〜〜ル」とは？

そもそも…自治体の存在理由ですが…

住民の福祉のため

では、その「福祉」とは？ — 広く使われたのは福沢諭吉によるらしい
welfare 「**幸せ**」「**豊かさ**」

じゃあ、住民の方が思う「**幸せ**」「**豊かさ**」とは？

とりあえず、教えてもらおう！

「あなたが『**幸せ**』を感じる時」アンケートへ

こんなこと関心があるんだ

自分としてはどうかな？

皆さんはこんな風に思っているんだ！

・アンケートを知って ・アンケートに答えてみて ・アンケートの結果をみて…
様々な立場、形で、皆さんの現状を振り返るきっかけになればと思っています。

－麻生区男女長寿日本1「その先へ」－
で、その先の目指すゴールは？



みんなの『幸せ』



幸せを感じる時ランキング

109



家族、友人、地域との関わり

101



食事

22



寝る

『人や地域との関わり』
に関するワードが最も多
く、食事においても、
「友人・家族との食事」
という記載が多く見られ
ました!!

3

麻生区区民アンケート

調査地域	麻生区全域
調査対象	麻生区在住の満18歳以上の外国人含む男女個人
標本数	2000サンプル
標本抽出方法	住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
調査方法	郵便法（郵送による調査票の配布及び回収）
調査期間	令和6年7月12日～ 同 8月12日（最終回収日 同 12月10日）
調査委託期間	山上技術士事務所
調査項目	

- (1) 麻生区について
- (2) 麻生区役所について
- (3) 麻生区内の市民利用施設について
- (4) 地域活動について
- (5) 町内会・自治会について
- (6) 暮らし、生活について
- (7) 災害への備えについて
- (8) 新百合ヶ丘周辺のまちづくりについて
- (9) 自由意見

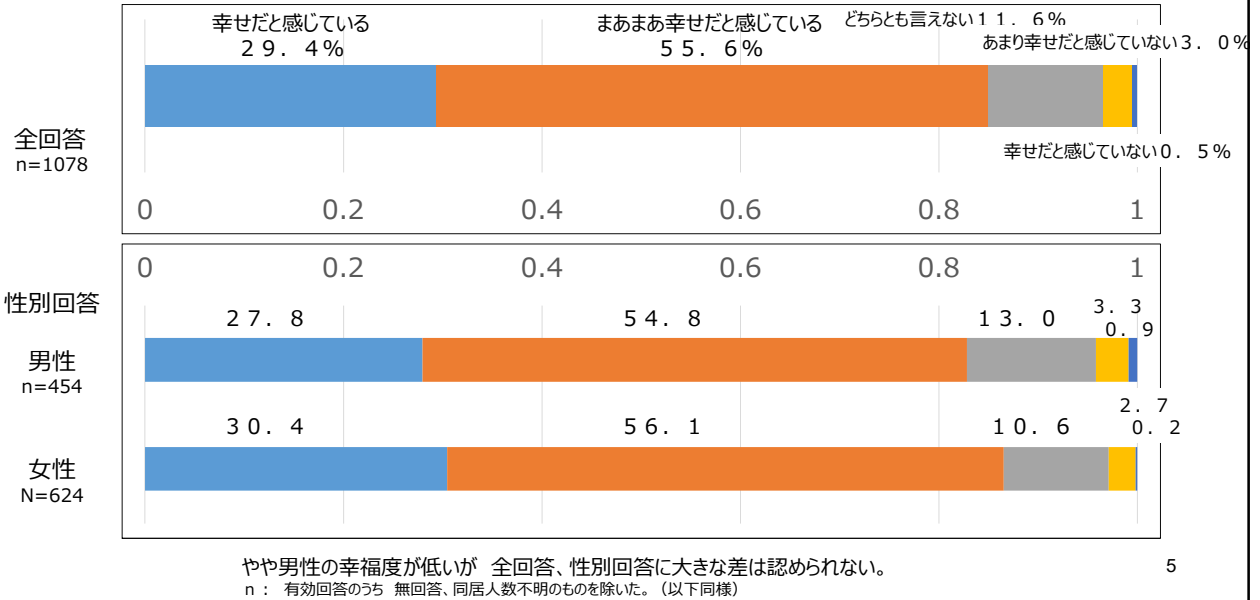
- (1) 話し相手や相談できる人の有無
- (2) サードプレイスについて
- (3) 社会とのつながりの影響
- (4) 健康状態について
- (5) 健康のために意識して行っていること
- (6) 現在の生活での幸福感
- Q32 現在の生活であなたはどの程度幸せだと感じていますか
- (7) 幸せだと感じる要因
- Q33 あなたが幸せだと感じる要因として影響の大きいものは何ですか
- (8) 自分らしく生き生きと暮らしていくために大事なこと

回収状況

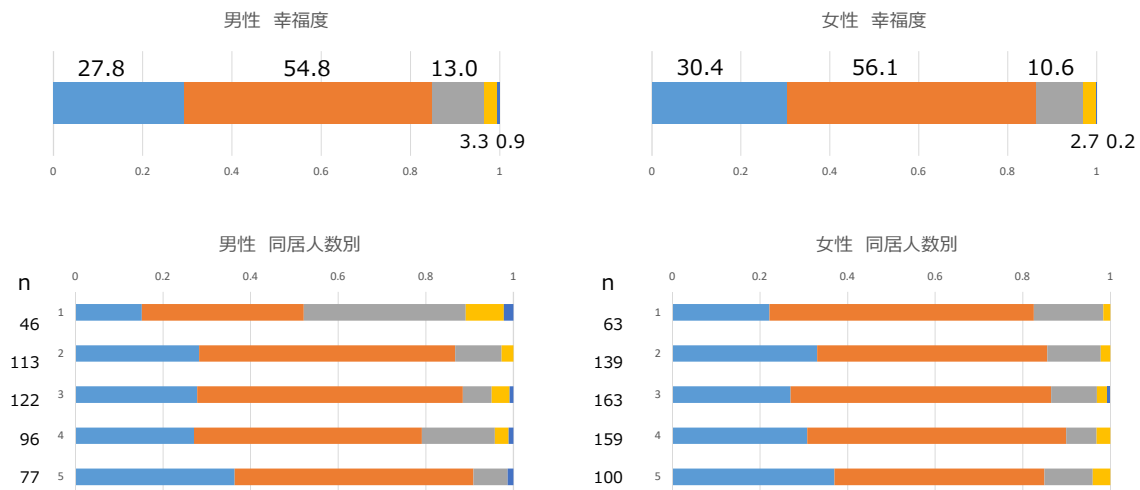
調査票配布数 2 0 0 0 回収数 1 1 3 9 （うち白紙回答 1）有効回収数 1 1 3 8
有効回収率 5 6 . 9 %

4

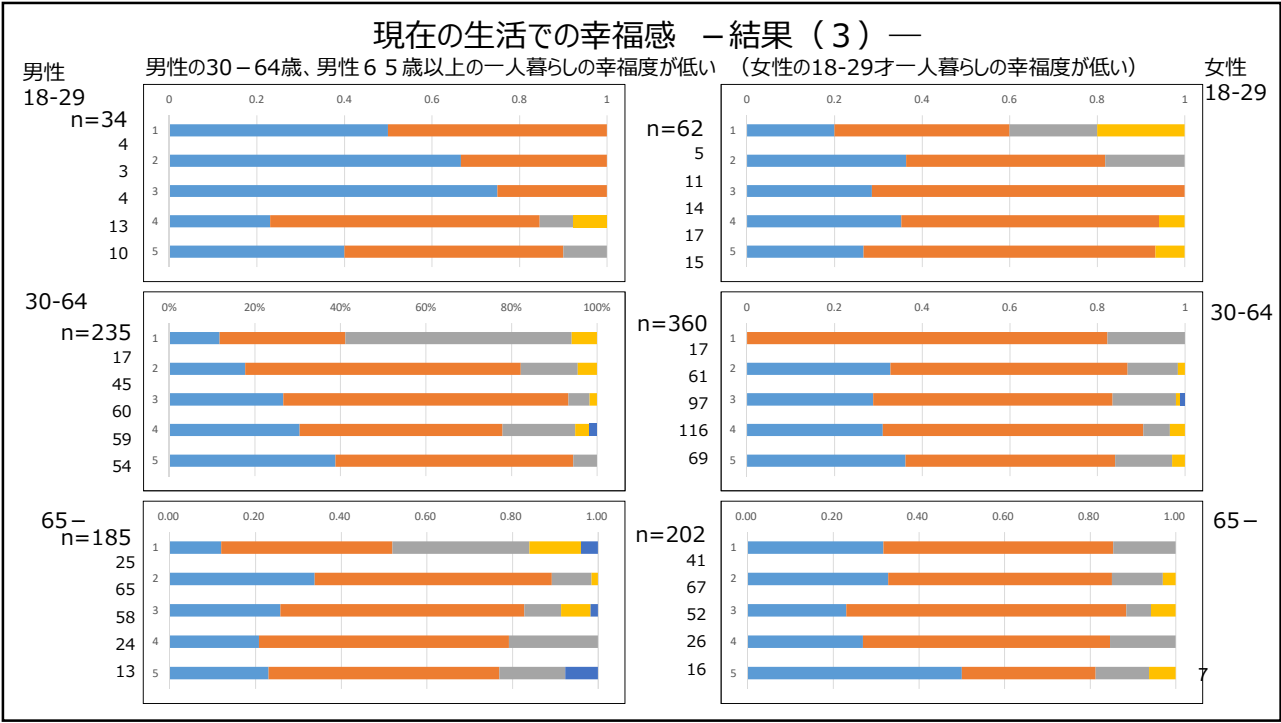
現在の生活での幸福感 — 結果（１） —



現在の生活での幸福感 — 結果（２） —



同居人数別でみると「男性一人暮らし」の幸福度が低いことがわかる
全体で80%以上、また同居人数別でも「幸福、まあまあ幸福」が概ね80%超であるなか、
男性一人暮らしの「幸福、まあまあ幸福」は52.2%にとどまる。



幸せ と 相談できることー相談できる人（項目数）												
	全体 n=1101				男性 n=463				女性 n=638			
相談できる人 （項目数）	2. 4				2. 1				2. 6			
	幸せ1－2 n=922		幸せ3－5 n=162		幸せ1－2 n=379		幸せ3－5 n=79		幸せ1－2 n=543		幸せ3－5 n=83	
相談できる人 （項目数）	2. 5		1. 8		2. 2		1. 5		2. 8		2. 0	
	同居 n=842	単身 n=69	同居 n=128	単身 n=33	同居 n=353	単身 n=24	同居 n=55	単身 n=24	同居 n=489	単身 n=45	同居 n=73	単身 n=9
相談できる人 （項目数）	2. 6	2. 5	2. 0	1. 2	2. 3	2. 0	1. 9	1. 1	2. 8	2. 8	2. 1	1. 4
	同居 n=970						単身 n=102					
相談できる人 （項目数）	2. 5						2. 1					

幸せ と 相談できること - 相談できる人がいない												(%)	5~9.9	10~20	20以上
	全体 n = 1 1 0 1				男性 n = 4 6 3				女性 n = 6 3 8						
相談できる人がいない (%)	2 5 (2.3)				2 0 (4.3)				5 (0.8)						
	幸せ 1 - 2 n=922		幸せ 3 - 5 n=162		幸せ 1 - 2 n=379		幸せ 3 - 5 n=79		幸せ 1 - 2 n=543		幸せ 3 - 5 n=83				
相談できる人がいない (%)	1 2 (1.3)		1 3 (8.0)		9 (2.4)		1 1 (13.9)		3 (0.6)		2 (2.4)				
	同居 n=842	単身 n=69	同居 n=128	単身 n=33	同居 n=353	単身 n=24	同居 n=55	単身 n=24	同居 n=489	単身 n=45	同居 n=73	単身 n=9			
相談できる人がいない (%)	7 (0.8)	5 (7.2)	7 (5.5)	6 (18.2)	6 (1.7)	3 (12.5)	6 (10.9)	5 (20.8)	2 (0.4)	1 (2.2)	0	2 (22.2)			
	同居 n=970						単身 n=102								
相談できる人がいない (%)	1 1 (1. 1)						1 4 (1 3. 7)								

幸せ と 相談できること - 年齢階級別									
	18-29 n=98		30-64 n=601		65- n=402		75-(再掲) n=224		
相談先-項目数-	2. 7		2. 5		2. 2		2. 1		
相談できる人がいない (%)	0		1 1 (1.8)		1 4 (3.5)		6 (2.7)		
	同居 n=89	単身 n=9	同居 n=561	単身 n=34	同居 n=320	単身 n=60	同居 n=176	単身 n=41	
相談先-項目数-	2. 7	2. 5	2. 6	2. 0	2. 3	2. 1	2. 2	1. 7	
相談できる人がいない (%)	0	0	7 (1.2)	4 (12.5)	7 (2.2)	7 (11.7)	3 (1.7)	3 (7.3)	
	幸せ 1 - 2 n=89	幸せ 3 - 5 n=9	幸せ 1 - 2 n=509	幸せ 3 - 5 n=87	幸せ 1 - 2 n=324	幸せ 3 - 5 n=66	幸せ1-2 n=182	幸せ3-5 n=35	
相談先-項目数-	2. 8	2. 7	2. 6	2. 0	2. 3	1. 6	2. 2	1. 5	
相談できる人がいない (%)	0	0	4 (0.8)	7 (8.0)	8 (2.5)	6 (9.1)	3 (1.6)	3 (8.6)	

麻生区として目指す「ゴ〜〜〜ル」とは？

そもそも…自治体の存在理由ですが…

住民の福祉のため

じゃあ、住民の方が思う「**幸せ**」を感じられない人の特徴

「ひとり暮らし」というだけ？

⇔「自己肯定感」の差？？

区役所としては
インクルージブ
が大前提

「つながり」が大事というだけでは、「ひとり暮らし」の方にはネガティブメッセージ

こんなことも自慢になるんだね

皆さんはこんな風に思っているんだ！

自分もちょっとプチ自慢してみよう

とりあえず、「自己肯定感」を感じるとき（プチ自分自慢）を教えてもらおう！

『**自分自慢**』アンケート（自慢なんかないよという皆さんも是非、一度考えてみてください！）

- ・アンケートを知って ・アンケートに答えてみて ・アンケートの結果をみて…
- 様々な立場、形で、皆さんの現状を振り返るきっかけになればと思っています。